

取扱説明書及び部品表

Takakita

自走小型ローバレータ

SR-612

SR-612D

SR-612DN



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。

お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットから右記QRコードを読み込んで
アクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**自走小型ロールペーラ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取り扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いています。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

- | | |
|------|--|
| ⚠ 危険 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
| ⚠ 警告 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
| ⚠ 注意 | その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。 |

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	9
各部の名称とはたらき	10
運転に必要な装置の取扱い	12
1. キースイッチ	12
2. エンジンスロットルレバー	13
3. チョークレバー (SR-612)	13
4. 走行クラッチレバー	13
5. 前後進変速レバー	13
6. サイドクラッチレバー	14
7. 作業クラッチレバー	15
8. ピック昇降レバー	15
9. チャンバー開閉レバー	15
10. 梱包圧感知装置の取扱い	16
11. 密度調整レバー	16
12. トWIN自動繰出し装置 (SR-612, D)	16
13. トワインの通し方① (SR-612, D)	16
14. トWIN巻付けピッチ調整の仕方 (各機種共通)	17
15. トWIN案内金具の位置確認① (SR-612, D)	17
16. トWINのリセット装置 (SR-612, D)	17
17. トWIN繰り出しスイッチ (SR-612, D)	18
18. トWIN (ネット) 自動繰出し装置 (SR-612DN)	18
19. トワインの通し方② (SR-612DN)	18
20. ネットの脱着方法 (SR-612DN)	19
21. ネットの通し方 (SR-612DN)	20
22. ネット (トWIN) の外し方 (SR-612DN)	20
23. ネット (トWIN) の巻き数設定 (SR-612DN)	20
24. トWIN案内金具の位置確認② (SR-612DN)	22
25. ネット (トWIN) 繰り出しレバー (SR-612DN)	22
26. タイトチェーン注油装置の取扱い	22
27. 安全装置の取扱い	23
28. 切断装置の取扱い	23
29. キッカーの取扱い	24
30. シート	25
31. ライトスイッチ	25
32. ワラが詰まる場合	25
33. 低速車マークの装着	25
34. 切わら作業の場合	26
作 業 方 法	27
1. 作業手順と要点 (SR-612, D)	27
2. 作業手順と要点 (SR-612DN)	28
3. ピックアップドラムの高さ調整	29
4. 牧草の拾い上げ方法	29
5. 切断ワラと長ワラの拾い上げ方法	29
6. 梱包作業方法	30
7. 結束時の注意① (SR-612, D)	30
8. 結束時の注意② (SR-612DN)	30
積降ろし運搬・移動	31
1. トラック・トレーラへの積降ろし	31
2. トラック及びトレーラでの運搬	31
3. 移動について	31
作業前の点検について	32
1. 点検一覧表	32

目 次

簡単な手入れと処置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

- | | | | |
|--|----|--|----|
| 1. エンジンの点検・調整・・・・・・・・・・・・・・ | 33 | 12. ネットがゴムローラに巻きついた場合の処置
(SR-612DN) | 37 |
| 2. エンジンのエアクリーナ・・・・・・・・・・・・・・ | 33 | 13. チャンバー開閉調整・・・・・・・・・・・・・・ | 38 |
| 3. ミッションオイルの点検・・・・・・・・・・・・・・ | 33 | 14. クロップカバーの開け方・・・・・・・・・・・・・・ | 39 |
| 4. クローラの張り調整・・・・・・・・・・・・・・ | 33 | 15. 切断ナイフの手入れ・・・・・・・・・・・・・・ | 40 |
| 5. H S T ミッションのオイル管理・・・・・・・・・・・・ | 34 | 16. バッテリーについて・・・・・・・・・・・・・・ | 40 |
| 6. 走行クラッチ・作業クラッチの調整・・・ | 34 | 17. 各部への注油・グリスアップ・・・・・・・・・・・・ | 41 |
| 7. 左右のサイドクラッチレバー・・・・・・・・・・・・ | 34 | 18. トWIN切断ナイフの交換 (SR-612, D) | 42 |
| 8. トWイン結束装置の調整 (全型式共通) ・ | 35 | 19. 長期格納時の手入れ・・・・・・・・・・・・・・ | 42 |
| 9. トWイン繰り出し調整 (全型式共通) ・ | 35 | 20. アワメータの取付け方法 (別売) | 42 |
| 10. ネット (トWイン) 繰り出し調整 (SR-612DN) ・ | 36 | | |
| 11. 幅の狭い (幅 690 mm) ネットを使用する場合
(SR-612DN) | 37 | | |

不 調 診 断・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

付 表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

- | | | | |
|-----------------------------|----|----------------------------|----|
| 1. 主要諸元 (SR-612, D) | 45 | 3. 主要諸元 (SR-612DN) | 46 |
| 2. 主な消耗部品 (SR-612, D) | 45 | 4. 主な消耗部品 (SR-612DN) | 46 |

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

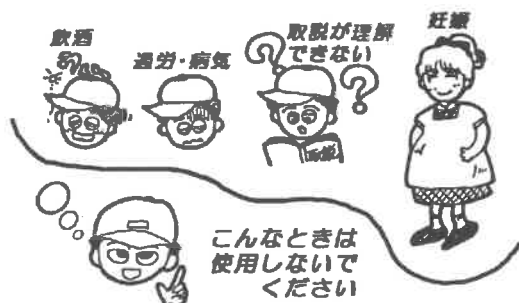
機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

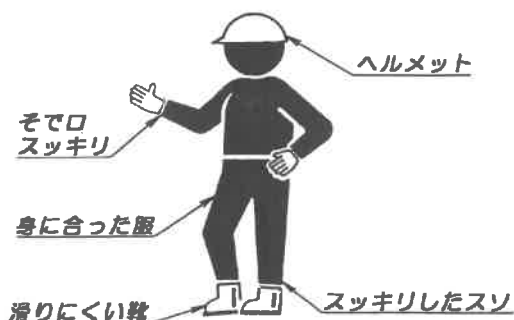
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。



(4) 使用目的以外への使用禁止

稲ワラ・麦稈・牧草をロールすることを目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。

(5) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



⚠ 安全に作業するために

2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、エンジンを止め、車止めをしてから行ってください。



(4) 点検・整備は過熱部分が冷めてから

マフラやエンジンなどの加熱部分が十分に冷めてから点検・整備をしてください。守らないと火傷する恐れがあります。

(5) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手でふれないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(6) 機械を常にきれいに

エンジン・マフラ・ベルトカバーなどに枯草、芝草がたまっていると、思わぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。



(7) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

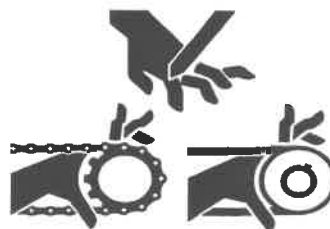
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(8) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外す場合は、必ず作業クラッチと走行クラッチを切り、エンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

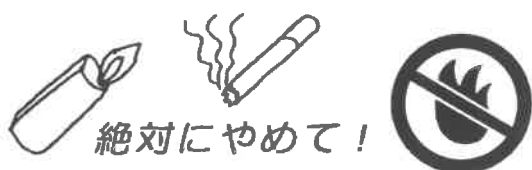
(9) 注油・給油するときは

作業クラッチと走行クラッチを切り、エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。



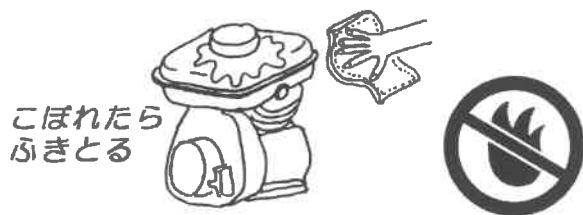
(10) 燃料補給時は火気厳禁

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



(11) こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



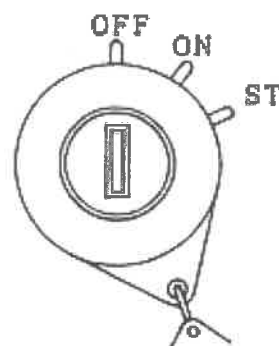
(12) マフラ・エンジンのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺に、ワラクズ・ゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



(13) ストップスイッチの動作確認を

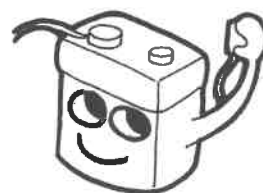
配線コードの外れなどが無いかを点検し、キースイッチを OFF の状態にするとエンジンが停止するかを作業前に必ず確認してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(14) 電気部品を修理するときは

①電気部品やその周辺の点検・修理を行うときには、必ずバッテリーの(－)側を外してから実施してください。

－をはずしてから
点検・修理しよう!



②バッテリーは、充電中可燃性ガスが発生し、引火爆発の恐れがあります。充電中はタバコを吸ったり、火を近づけたりしないでください。



！安全に作業するために

- ③バッテリー液は希硫酸なので扱いには注意し、体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合は、すぐ水で洗ってすみやかに医師の診療を受けてください。



(15) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部及びチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

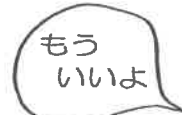
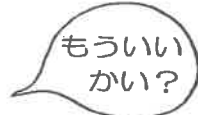
(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



(2) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(3) エンジンを始動するときは

作業クラッチおよび走行クラッチを切り、変速レバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。

守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



安全確認

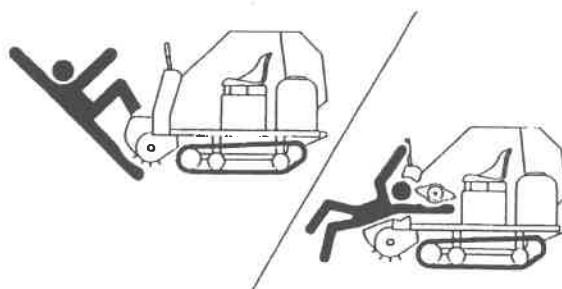
(4) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードを出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

(5) 回転中のピックアップドラムやタイトバーには触れない

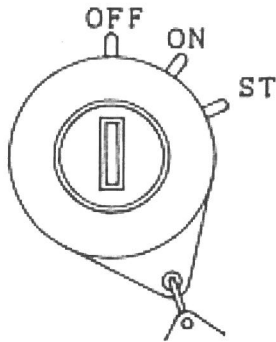
回転しているピックアップドラムやタイトバーに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



⚠ 安全に作業するために

(6) シェアボルトの交換や巻き付き草などを取り除くときは

エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。



(7) 移動及び旋回するときは

旋回時に片方のクローラをあぜぎわに乗り上げたり、急旋回は絶対に行わないでください。転倒や脱輪の恐れがあります。

(8) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ①等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

斜面の作業は、必ず等高線に対して直角方向に走行してください。

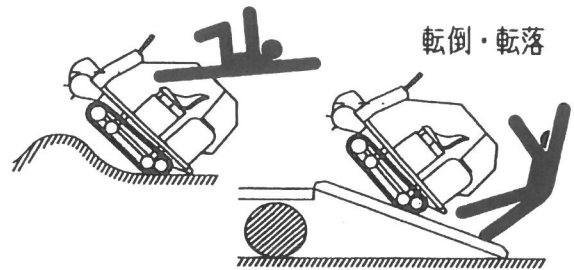
- ②傾斜地で旋回するときは、急旋回をしないでください。必ず速度を落としてください。

守らないと、転倒する危険があります。

- ③傾斜地でのバール放出は、谷側にロールが転動して危険です。必ず平坦地まで移動して、安全な場所に放出してください。

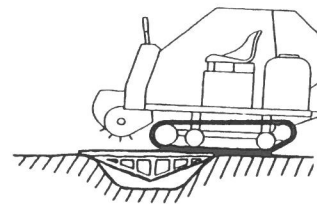
(9) 傾斜を登る（降りる）ときは

あぜ越えや田、圃場から出るとき、トラックへの積込み等、傾斜を登る時は必ず機体から降りて作業機を後ろ向きで走行させてください。前向きで登ると機体が転倒する恐れがあります。又、傾斜地を降りる時は、機体から降りて前向きで降りてください。



(10) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。

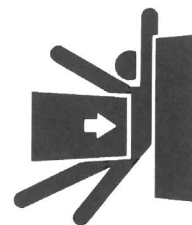


(11) 作業途中で運転席より離れるときは

平坦な場所に停車し、エンジンを止め、走行クラッチを切ってください。

(12) 後進して作業するときは

後方に障害物のないことを十分確認し、本機と障害物の間に人や動物を挟まないようにしてください。



⚠ 安全に作業するために

(13) あぜの乗り越えは

畦畔を越えるときは、機体が上向きから下向きに急に変わるので十分に注意し、本機には乗車せずに、最低速度で畦畔に直角に越えるようにしてください。あぜがコンクリートであったり、高さが10cm以上のときはアユミ板を使ってください。



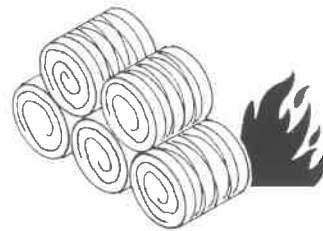
(14) 高温油に注意してください

- ①高温油による傷害を防止するために作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か十分温度が冷えてから行ってください。
- ②火傷やケガを負った場合は、速やかに医師の診療を受けてください。



(15) 乾草火災に注意

乾燥不十分な牧草をロールベールに成形すると、ロールベール内部からの発熱により火災が発生する危険があります。ロールベール成形後2～3日間は、風通しの良い屋外に仮置きした後、屋内に収納してください。



4. 道路走行・輸送するときは

(1) 公道走行はできません

本機は公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックなどで運送してください。

(2) トラックなどへ積込み・積降ろしは

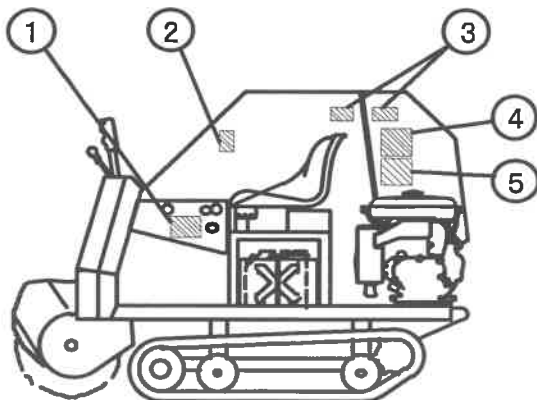
平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度でクラッチを使わずに、積込みの場合は後進で行ってください。積込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



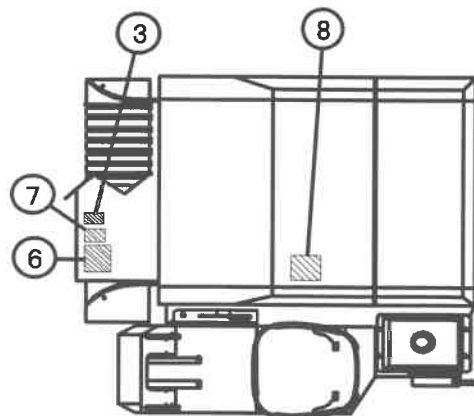
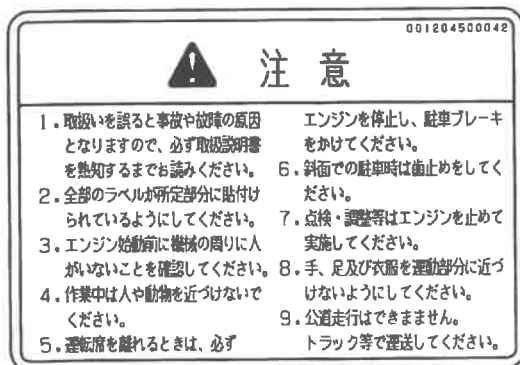
以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

5. 警告ラベルの貼付け位置



①部品コード 001204500042



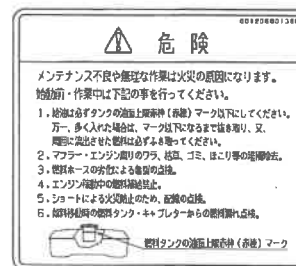
④部品コード 001206001270



②部品コード 001206000440



⑤部品コード 001206001380



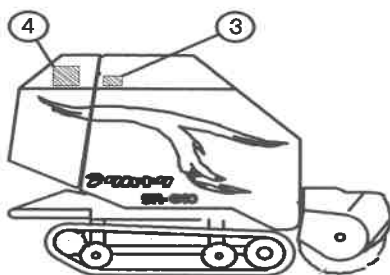
③部品コード 001206000800



⑥部品コード 001206001260



⚠ 安全に作業するために



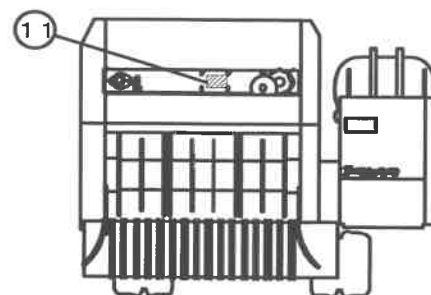
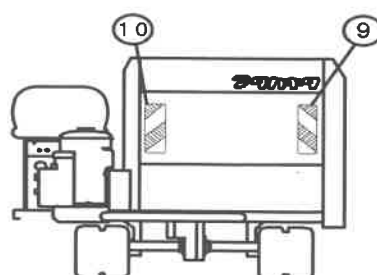
⑦部品コード 00130600210



⑧部品コード 001206001250



⑨部品コード 001306000370



⑩部品コード 001306000370



⑪部品コード 001206000561



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、稲ワラ・麦稈・牧草をロール状に梱包する作業にご使用ください。

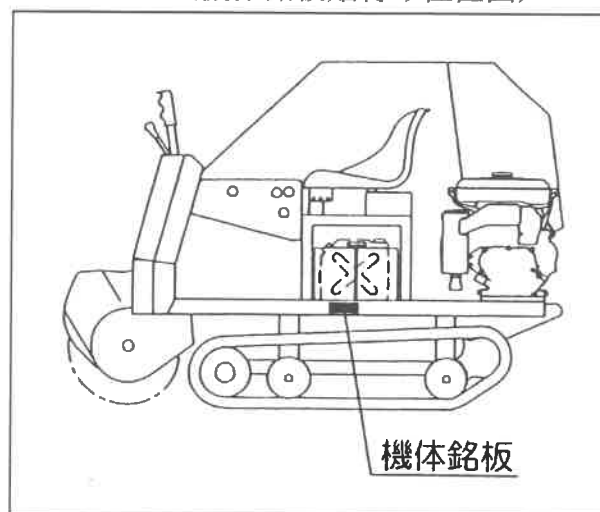
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

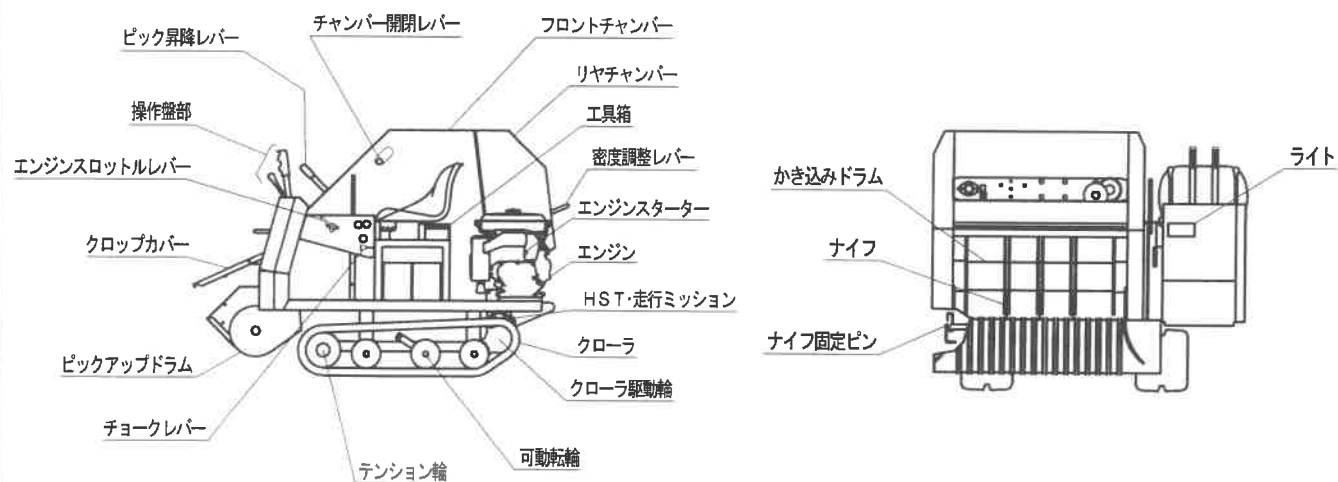
- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

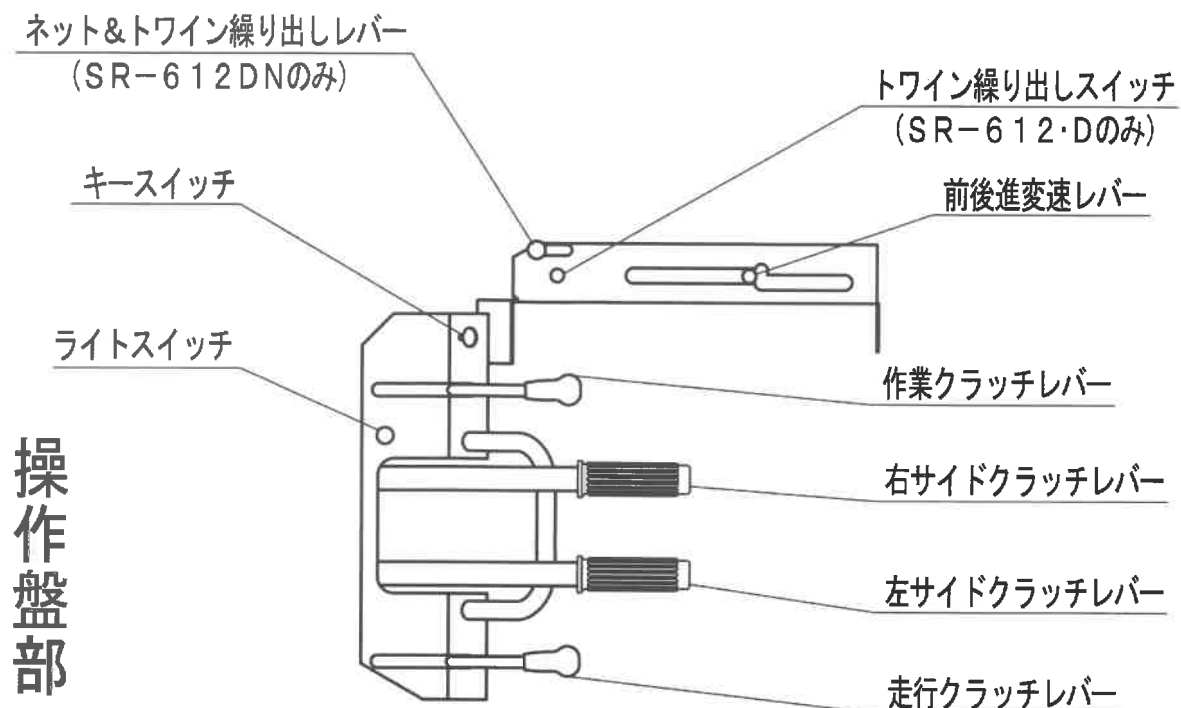
品 名	自走小型ロールベア		
型 式	SR-612	SR-612D	SR-612DN
機体No. (SER-No.)			
購入年月日	年 月 日		
販売店名	TEL : ()		

各部の名称とはたらき



名 称		は た ら き	参照 ページ
機 能 関 係	フロント／リヤチャンバー	草を梱包します。	—
	ピックアップドラム	草を拾います。	—
	クロップカバー	土砂の埃の飛散を少なくします。	3 9
	かき込みドラム	草をチャンバー内に送り込みます。	—
	ナイフ	草を切断します。	2 3
	ナイフ固定ピン	ナイフを固定します。	2 3
動 力 伝 達 関 係	エンジン	動力源。燃料はSR-612はレギュラーガソリンを使用します。 SR-612D、612DNはディーゼル軽油を使用します。	—
	エンジンスタータ	エンジンの始動時に使用します。	—
	HST・走行ミッション	走行速度及び前後進を無段階に行い、クローラへの動力伝達を行うミッション。	3 3
	クローラ駆動輪	クローラを駆動させる側の駆動輪。	—
	クローラ	ゴム製の走行履帯。	3 3
	テンション輪	クローラの張り具合を調整し、車体荷重を支えます。	3 3
操 作 関 係	可動転輪	あぜ越えやトラック等への積降ろし時に、機体の揺れを和らげます。	—
	エンジンスロットルレバー	エンジン回転速度を調整するレバー。	1 3
	ピック昇降レバー	ピックアップドラムの昇降を行います。	1 5
	チャンバー開閉レバー	レバーを上引くとチャンバーが開閉します。	1 5
	密度調整レバー	ロール成形の梱包密度を調整します。	1 6
そ の 他	チョークレバー (SR-612)	エンジンが始動しにくい時に使用します。	1 3
	ライト	夜間での走行時の照明に利用します。	—
	工具箱	シェアボルト等を入れておきます。	—

各部の名称とはたらき

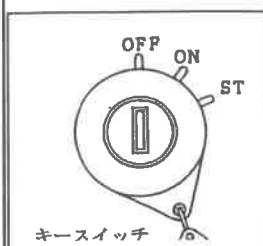


名 称		は た ら き	参照 ページ
操 作 関 係 (操 作 盤 部)	キースイッチ	START 位置でエンジンが始動します。OFF 位置でエンジンが停止します。	1 2
	ライトスイッチ	ライトの点灯、消灯の切り換え	2 5
	走行クラッチレバー	前に倒しておくで走行することができます。手前に引くと歩行できない状態になります。	1 3
	右サイドクラッチレバー	右側へ旋回するときに手前にこのレバーを引きます。	1 4
	左サイドクラッチレバー	左側へ旋回するときに手前にこのレバーを引きます。	1 4
	作業クラッチレバー	ベアラ部への動力伝達の入切を操作します。 手前に引くと動作が停止します。	1 5
	前後進変速レバー	本機の前後進の切り換え及び車速の変速を行います。	1 3
	トワイン繰り出しスイッチ (SR-612、D)	手前に倒すとトワインが繰り出されます。	1 9
	ネット&トワイン繰り出し レバー (SR-612DN)	手前に倒すとネットまたはトワインが繰り出されます。	2 2

運転に必要な装置の取扱い

1. キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。
エンジンを始動するときは、下図のように走行クラッチレバーと作業クラッチレバーの両方を「切」の状態にしてからキースイッチを START (スタート) 位置まで回してください。エンジンのセルモーターが回転し、エンジンが始動します。停止する時はキースイッチを OFF (停止) 位置まで戻してください。

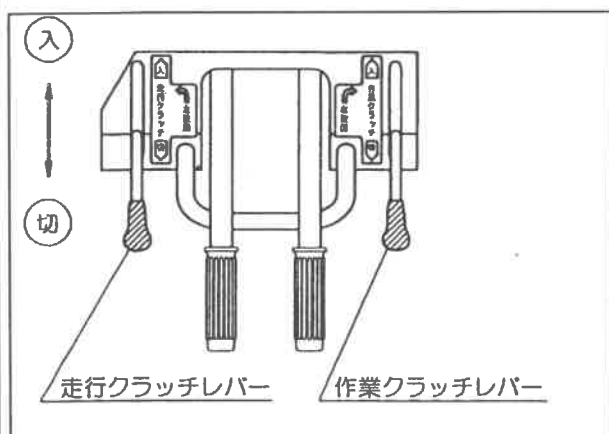


【OFF】

電気回路に電流が流れなくなるとともにエンジンが止まります。

【ON】

電気回路に電気が流れます。



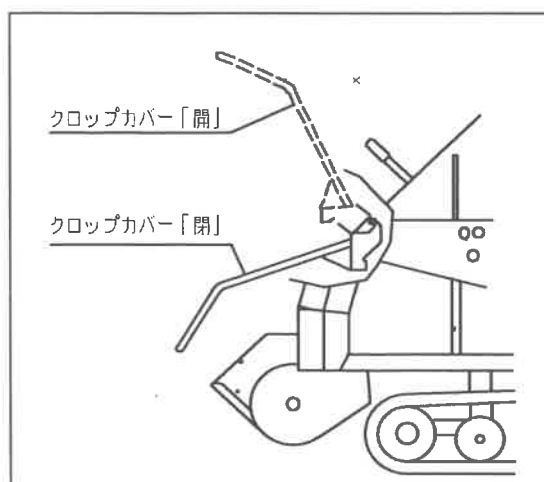
⚠ 危険

エンジン始動時は作業機が突然動き出さないよう、上図のように走行クラッチレバーと作業クラッチレバーを必ず「切」の状態になるように手で押えてキーを回してください。

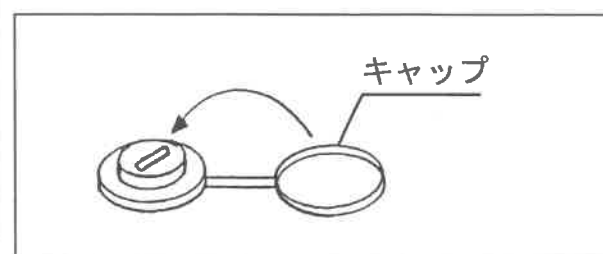
注意

- 本機は安全のため、クロープカバーが閉じている状態で、走行クラッチレバーと作業クラッチレバーの両方が「切」の状態になっていないとエンジンスタ

ータが回りません。始動する時は、クロープカバーを閉じ、両クラッチレバーを「切」の状態にしてからキースイッチを回してください。



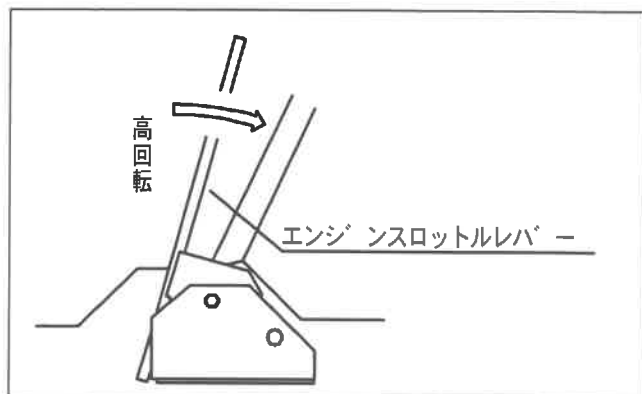
- 1回で始動せず再始動する場合は、エンジンが完全に止まっていることを確認の上、再度キースイッチを回してください。
- エンジンを再始動する場合、SR-6 12DとSR-6 12DNは、キースイッチを「OFF」にした後、16秒以上経ってから再度キースイッチを回してください。(故障の原因になります。)(ディーゼルエンジンの為、約16秒間は燃料カット機構が働いています。)
- セルモーターは15秒以上連続して回さないでください。(故障の原因になります。)
- エンジン回転中はキースイッチを「ST」位置にしないでください。セルモーターが破損します。
- 本機を使用しない時は、キースイッチを抜き、雨などが入らないようキャップをしてください。



運転に必要な装置の取扱い

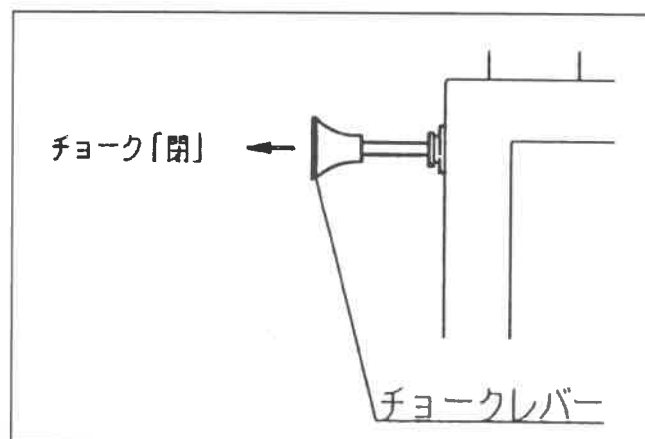
2. エンジンスロットルレバー

エンジンの回転速度を調整するレバーです。下図の方向に回すほど、エンジンの回転速度が速くなります。



3. チョークレバー (SR-612)

エンジンを始動する時に使用します。



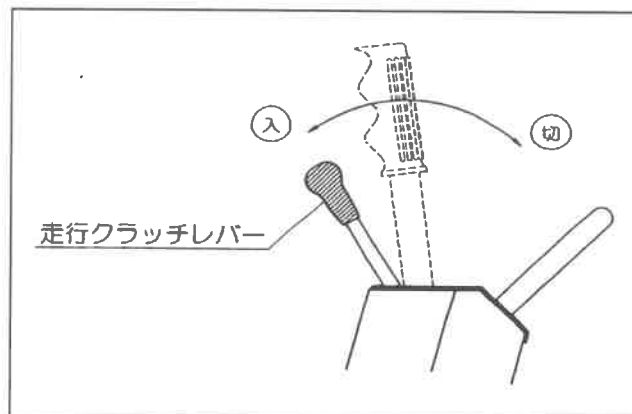
エンジンが冷えている時に始動する場合は、チョークレバーを引き（閉位置にして）エンジンスロットルレバーを少し高回転側にしてから、エンジンを始動してください。

注意

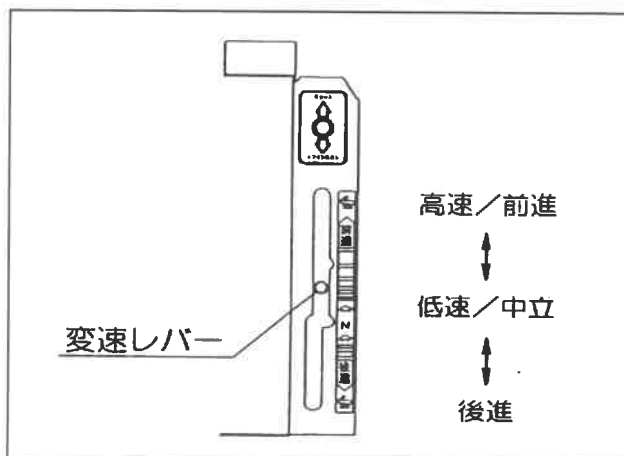
エンジンが始動した後は、チョークレバーを戻して（開位置にして）ください。

4. 走行クラッチレバー

- ①作業時には下図のように走行クラッチレバーを前に倒し、「入」の状態になると走行することができます。
- ②停止するときは、走行クラッチレバーを手前に引き、「切」の状態にすると本機の走行が停止します。



5. 前後進変速レバー



- ①本機の前後進、及び走行速度の変速は、このレバー1本の操作ですることができます。
- ②変速レバーを進行方向に向って前方へ倒すと本機は前進します。
- ③変速レバーを進行方向に向って手前へ倒すと本機は後進します。
- ④前進、及び後進のいずれにおいても、この変速レバーの傾れ度合に応じて無段階に車速が速くなります。

運転に必要な装置の取扱い

⚠ 危険

前進から後進、あるいは後進から前進に切り換えるときは、必ずこのレバーを一旦低速の位置に戻してから操作してください。急激な切り換えは、大変危険です。

《速度の目安》

	前 進	後 進
車 速	0～3.5 km/h	0～2.5 km/h

※作業速度は使用条件により誤差が発生します。

注 意

- 寒冷時には、HSTミッション内部のオイルが暖まるまで、暖気運転を行ってください。
- ウインドローの大きさに応じた速度で作業してください。
(同じ一列のウインドローの中でも、ウインドローが大きい場所では減速する等) 作業速度が速すぎると、詰まりの原因となり能率の良い梱包作業ができません。

6. サイドクラッチレバー

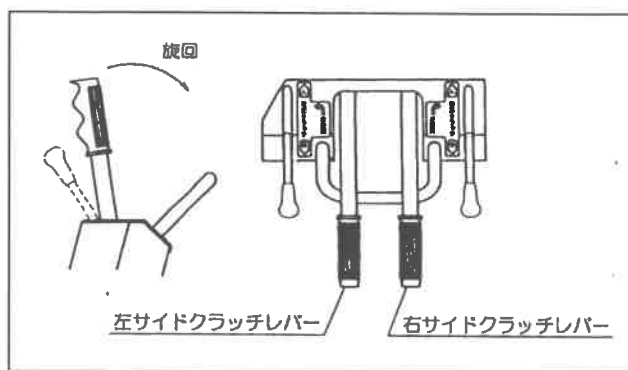
右に旋回するときは、右サイドクラッチレバーを手前に引き、左に旋回するときは、左サイドクラッチレバーを手前にひいてください。

注 意

- 旋回時以外は、左右のサイドクラッチレバーから手を放してください。
(走行ミッションのクラッチ爪の消耗を早めます。)
- 砂利道やぬかるみでの急旋回は、クローラへの石や泥の噛み込みの原因となりますので行わないでください。

⚠ 危険

高速走行時、サイドクラッチレバーを強く引くと急旋回して大変危険です。

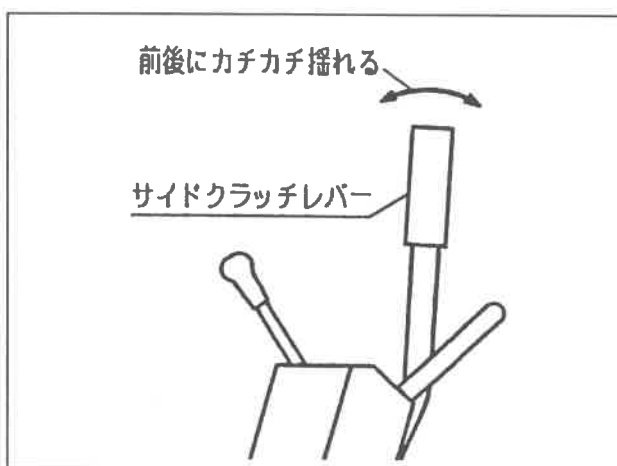


⚠ 危険

左右両側のサイドクラッチレバーを同時に操作すると車体が急停車しますので、緊急の場合を除き、左右のサイドクラッチレバーを同時に操作しないでください。

注 意

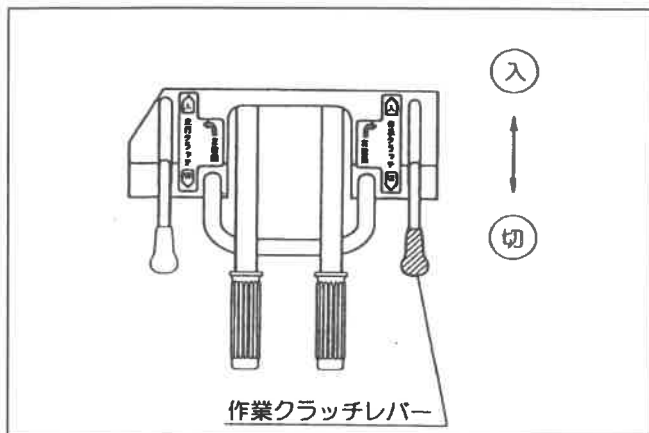
- 旋回時に、走行ミッションが半クラッチの状態（サイドクラッチレバーを引いている時にレバーが前後にカチカチ揺れる状態）では旋回しないでください。
レバーが揺れる場合は、レバーをさらに引いて、機体を旋回させてください。
- 旋回時に、走行ミッションが半クラッチになる頻度が高いと、走行ミッションが破損する恐れがあります。



運転に必要な装置の取扱い

7. 作業クラッチレバー

作業クラッチレバーを下図の状態から前方の「入」位置の方向へ倒すと作業クラッチがつながり、ペーラ部が回転します。

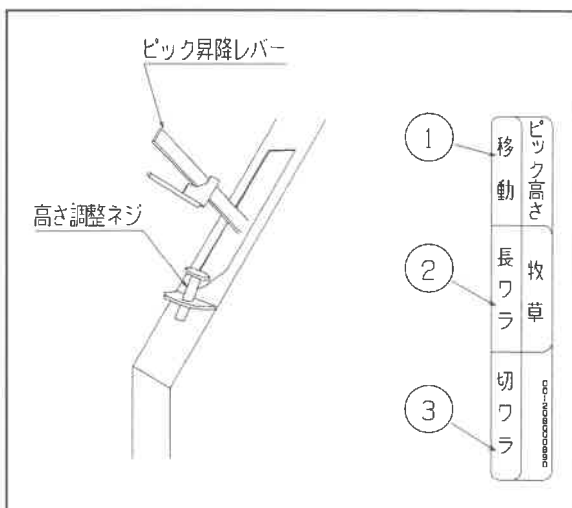


注意

- エンジンがアイドリング状態で作業クラッチを「入」にすると、エンジンがストップする場合があります。
- エンジンの回転速度を少し上げてから、作業クラッチをゆっくりとつないでください。

8. ピック昇降レバー

- ピック昇降レバーで目的に合わせてピックの高さを調節してください。



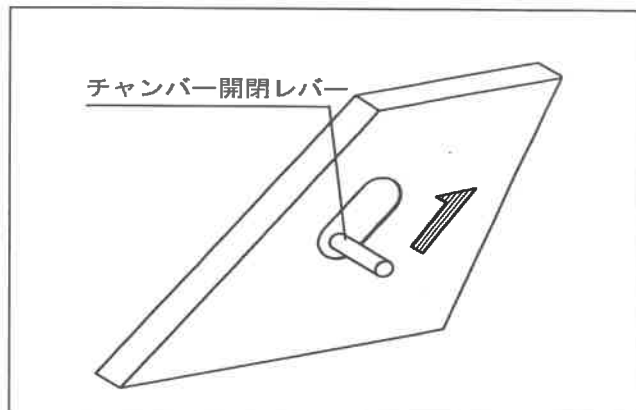
- ① 移動・あぜ越え等
- ② 長ワラ・牧草
- ③ 切ワラ

- ピック最下段（③の位置）でのピック高さの微調整は高さ調整ネジで行ってください。

注意

移動やあぜ越え、トラックへの積み込み時は、必ずピックを最上段まで上げてください。

9. チャンバー開閉レバー



- ペーラ部が回転している状態でレバーを引くと、チャンバーが開きます。

注意

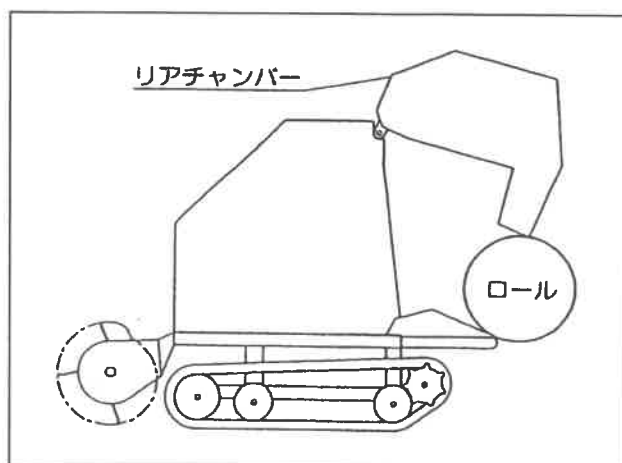
レバーは軽く1回引いてください。

- チャンバーが開いた後に再度レバーを引くと、チャンバーが閉まります。

注意

チャンバーの開閉時にレバーを引き続けしないでください。

- 下図のように、チャンバーを閉じた時にチャンバーの間にロール等が詰まった場合は、再度レバーを引いてください。

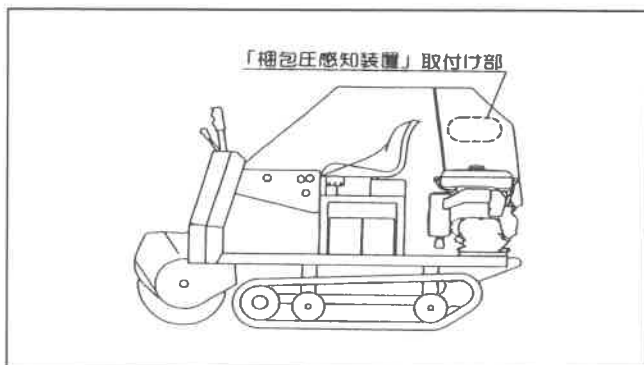


運転に必要な装置の取扱い

10. 梱包圧感知装置の取扱い

◆梱包圧感知装置の装備位置

下図に示すように、進行方向左側のサイドカバーの内側に梱包圧感知装置を装備しています。



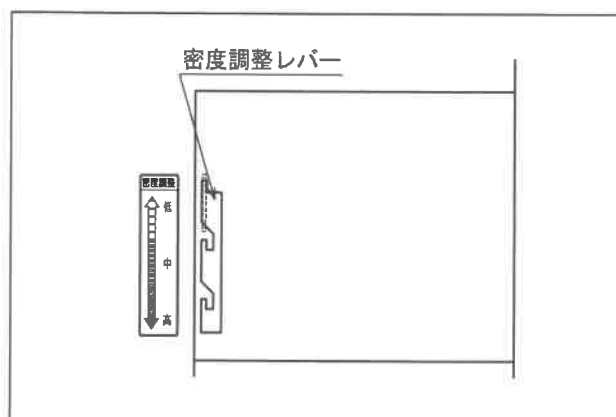
◆梱包圧感知装置の作用

梱包圧力を感知する装置で、圧力感知と同時にブザーを鳴らし、トワインの自動繰り出しに連動します。

11. 密度調整レバー

リヤチャンバーに装備している密度調整レバーにより、ロールの梱包密度を4段階に調整できます。

上に上げると密度が低くなり、下に下げると高くなります。



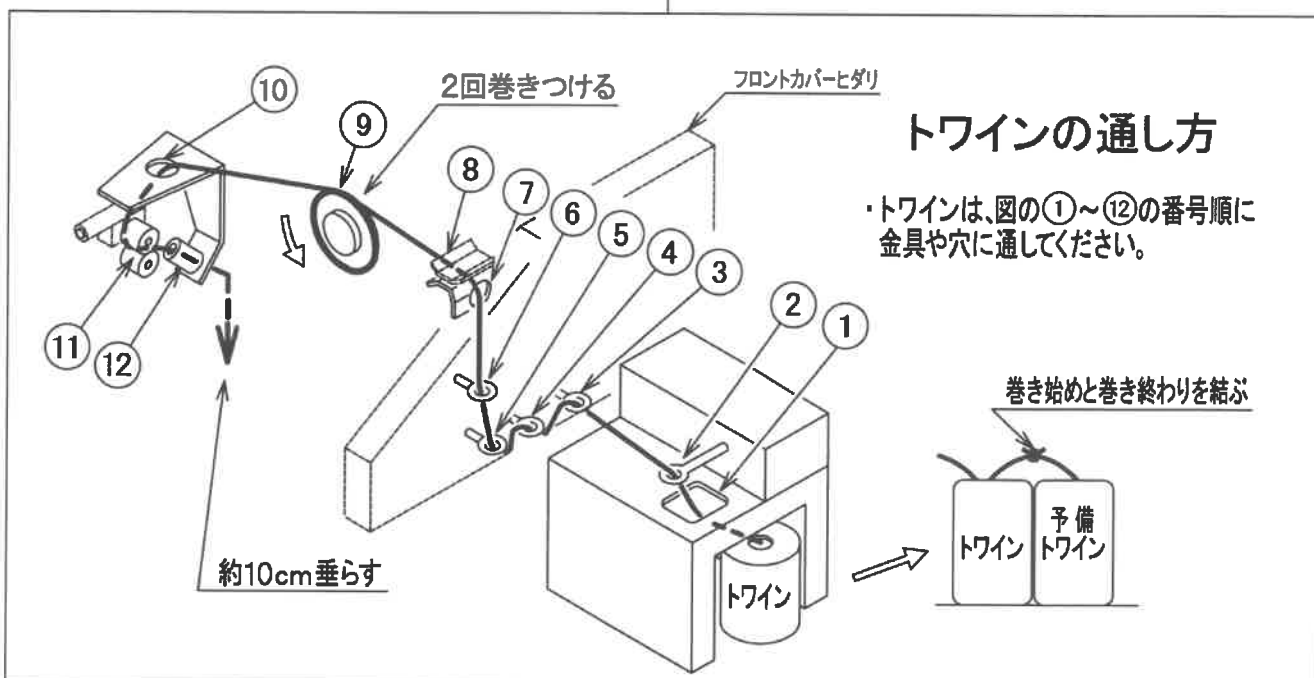
12. トワイン自動繰り出し装置 (SR-612, D)

◆トワイン自動繰り出し装置の作用

予め設定しておいたロール成形時の圧力が梱包圧感知装置で感知されると、ブザーが鳴り、自動的にトワインが繰り出され、ロールにトワインが巻き終わると自動的にトワインが切断されます。

13. トワインの通し方① (SR-612, D)

- (1) 下図のように座席の下にトワインをセットしてください。
- (2) フロントカバーヒダリを外してください。

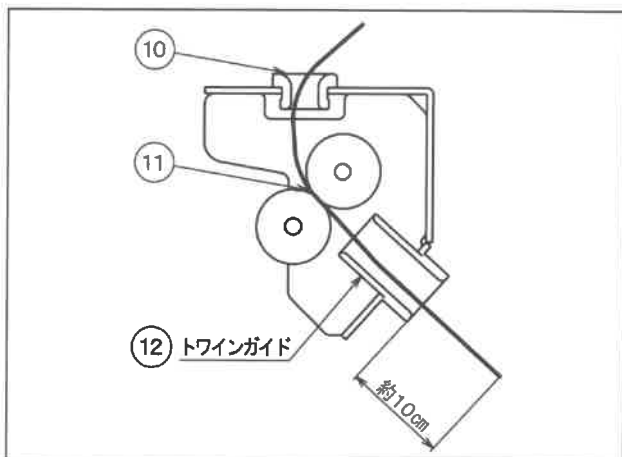


運転に必要な装置の取扱い

(3) 図中の番号順に、金具や穴にトワインを通してください。

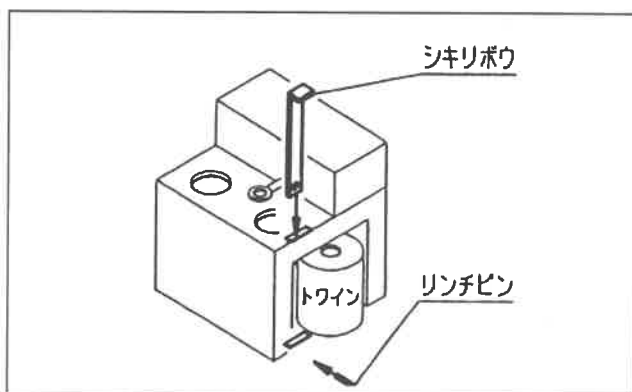
※ ⑨段付きプーリーにはトワインを反時計方向に2回巻き付けてください。

(4) ⑫トワインガイドを通ったトワインが、ガイドより約10cm程度出るようにセットしてください。



◆12000フィートのトワインを使用する場合

下図の様にシキリボウを上から差し込んでください。



14. トワイン巻き付けピッチ調整のしかた (各型式共通)

成形したロール外周に巻き付けるピッチの調整は、トワインを巻きつける段付きプーリーの径を変えることに行います。

段付きプーリー	大	小
巻き付けピッチ	狭い	広い
成形する草の長さ	短い草	長い草

15. トワイン案内金具の位置確認① (SR-612、D)

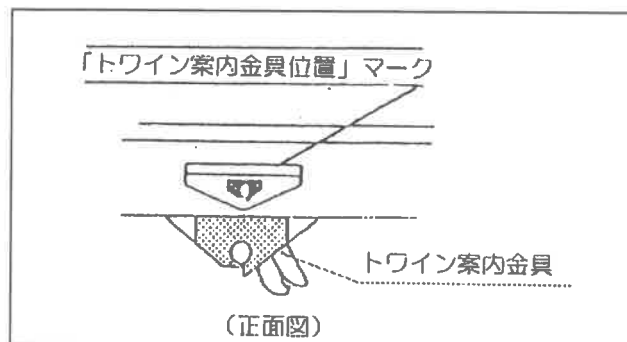
◆トワイン案内金具スタート位置合わせ

作業前に必ず、トワイン案内金具をスタート位置マークに合わせてください。

(段付きプーリーを手で回転させて位置を合わせてください。)

注意

位置合わせをしないと、トワインの無駄巻きと巻き付け時間が長くなります。



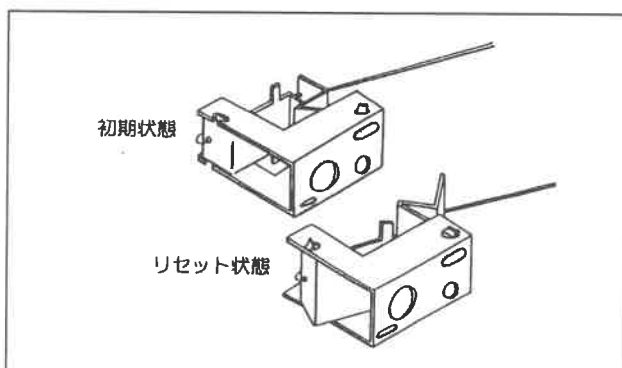
16. トワインのリセット装置 (SR-612、D)

◆リセット装置の作用

右フロントカバーを開くとリセット装置があります。

ロール成形が完了するとブザーが鳴り、トワインが繰り出されます。

トワイン巻きが始まるとブザーが鳴り止め、チャンバーを開けるとリセット装置が元に戻り、次の作業に備えます。



運転に必要な装置の取扱い

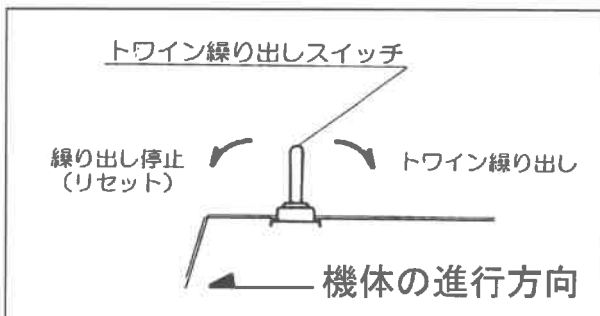
◆作業前にはチャンバーを開閉してください。

リセットスイッチのリセット（初期状態）と動力関係の確認も同時にできます。

注意

必ず、トワイン案内金具をスタート位置に合わせてからチャンバーを開閉し、リセットしてください。

17. トワイン繰り出しスイッチ (SR-612、D)



ほ場での作業終了時に、草量が少なくロール成形感知まで至らない場合等、手でトワインを繰り出したい時は上図のようにスイッチを1回手前へ倒すと、トワインが繰り出されます。

異常感知してトワインが繰り出された時には、前方へスイッチを倒してトワインの繰り出しを停止してください。

注意

チャンバー内で回転しているロールにトワインが巻き付いている状態では、スイッチを前方へ倒してもトワイン繰り出しは止まりません。

18. トワイン（ネット）自動繰り出し装置 (SR-612DN)

◆トワイン（ネット）自動繰り出し装置の作用

予め設定しておいたロール成形時の圧力が梱包圧感知装置で感知されると、ブザーが鳴り、自動的にトワイン（ネット）が繰り出され、巻き終わると自動的にトワイン（ネット）が切断されます。

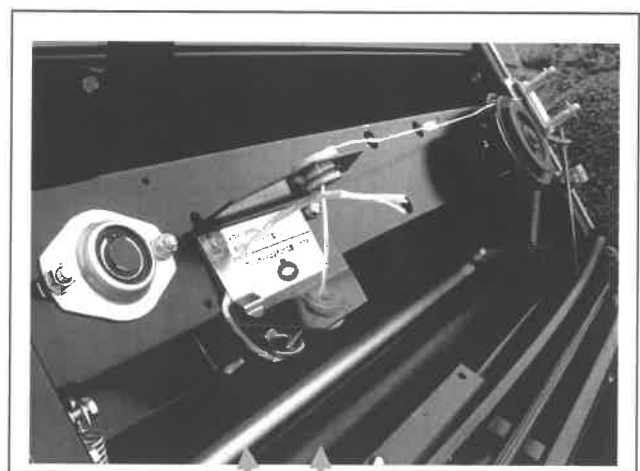
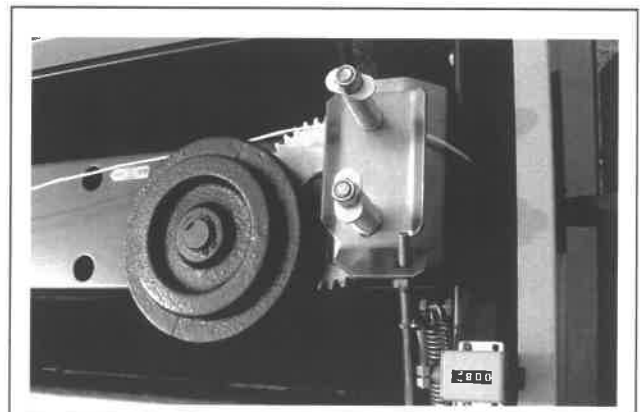
注意

繰出し中は（ネット、トワイン共）、エンジン回転を作業状態のまま維持し、アイドリングにしないでください。
機械と電気のタイミングが合わず繰出し動作が停止しなくなります。

19. トワインの通し方② (SR-612DN)

- ①（13. トワインの通し方①）のように座席下にトワインをセットしてください。
- ②フロントカバーヒダリを外してください。
- ③（13. トワインの通し方①）の図中の番号順に、図中の①～⑨まで金具や穴にトワインを通してください。

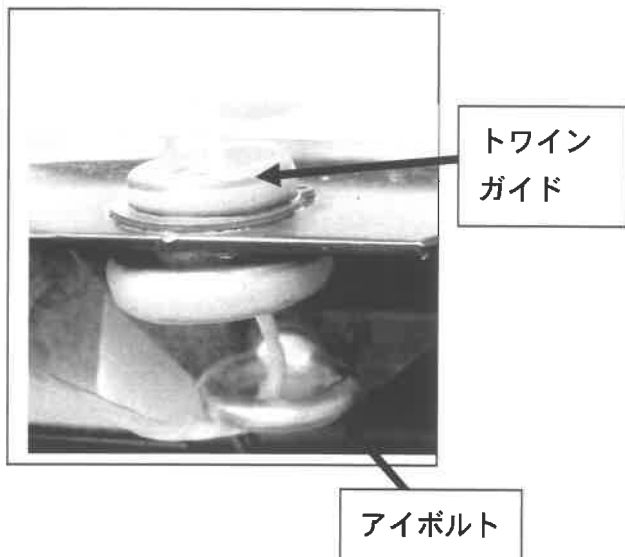
※ ⑧段付きプーリーにはトワインを反時計方向に1回のみ巻き付けてください。



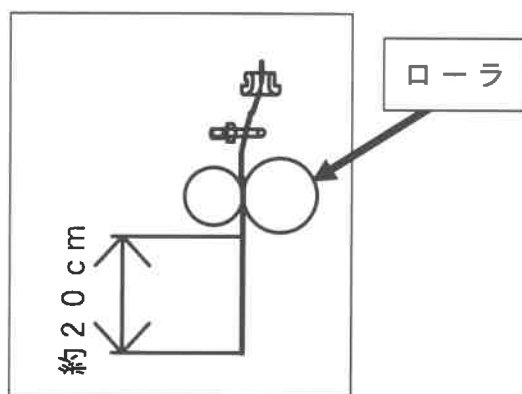
ローラ

運転に必要な装置の取扱い

- ④ トワインガイド⑨を通ったトワインを、さらにトワインガイド、アイボルトに通してください。



- ⑤ トワインを2つのローラの間に入れ、ローラ下にトワインを約20cm程出るようにしてください。(2つのローラの上にトワインを入れて、手で2つのローラを回すと入って行きます。)



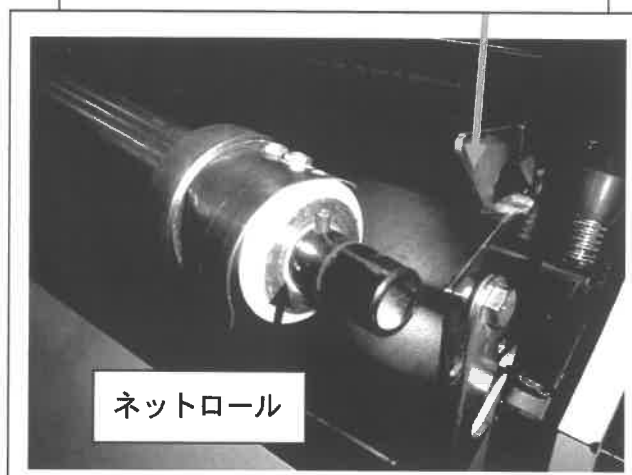
⚠ 警告

トワインを通す時は必ず作業機のエンジンを止めてから行ってください。
これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

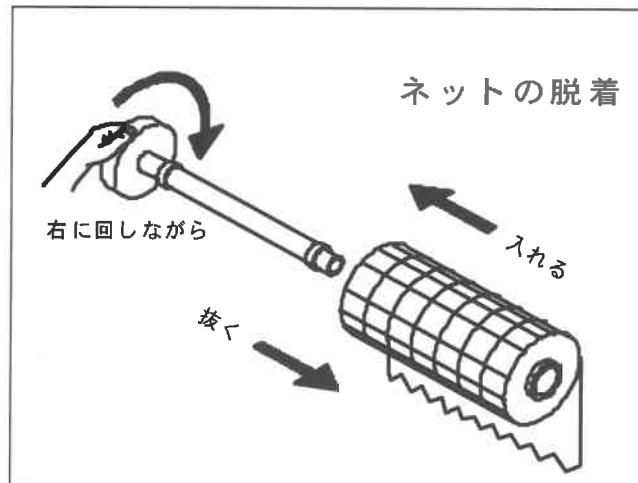
20. ネットの脱着方法 (SR-612DN)

- ① ネットロールのロックを外してネットロールを手前に引き出してください。

ロック：上にあげるとロックが外れます



- ② ネットロールを時計（右）回りに回しながらネットを装着した後、ネットロールを元どおりロックしてください。



ネットを外するときもネットロールを時計（右）回りに回しながら外してください。

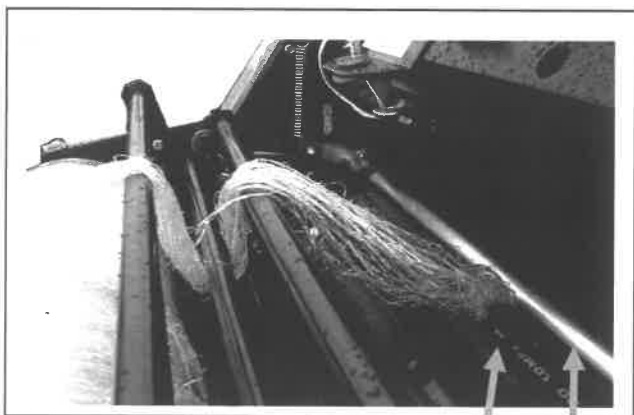
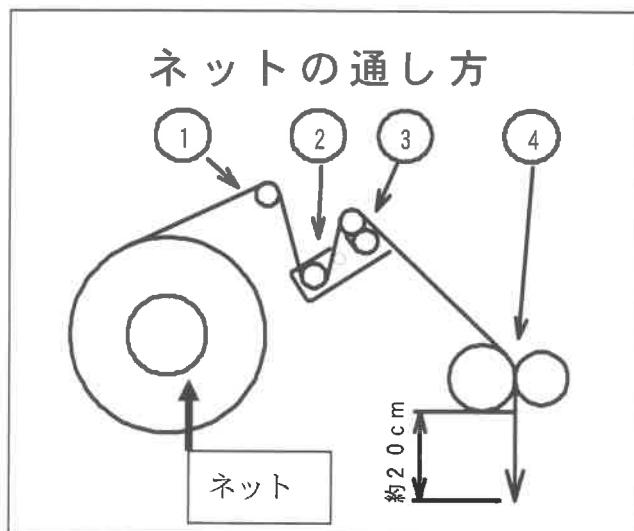
⚠ 警告

ネット脱着時は必ず作業機のエンジンを止めてから行ってください。
これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

運転に必要な装置の取扱い

2 1. ネットの通し方 (SR-612DN)

ネットを80cm程手前に引き出した後、図のようにネットを通してください。



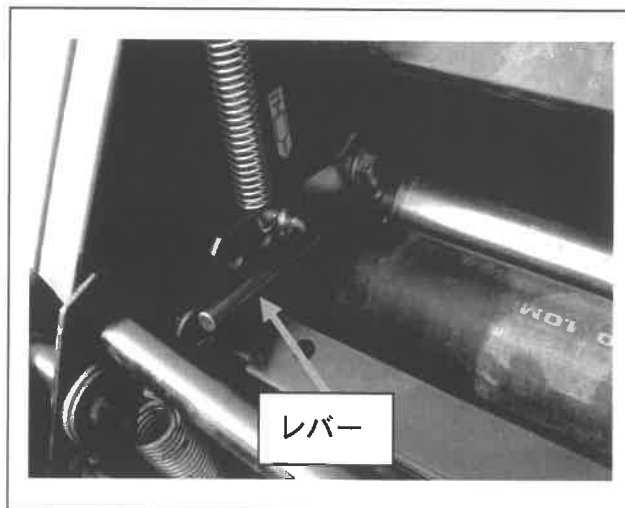
ネットの先は2つのローラの間に入れてください。(2つのローラの間ネットを入れて、手で2つのローラを回すが入って行きます。その際、ネットは横に広がっていかなくてもかまいません。)

警告

ネットを通す時は必ず作業機のエンジンを止めてから行ってください。
これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

2 2. ネット (トワイン) の外し方 (SR-612DN)

ネットを外す時は下図のレバーを下へ押しながらネットを引っ張り出すと、ネットが外れます。(外れにくいときは反対側も押してください。)



警告

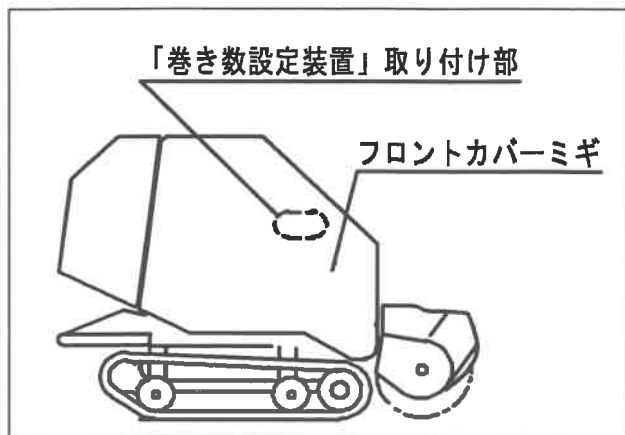
ネットを外す時は必ず作業機のエンジンを止めてから行ってください。
これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

2 3. ネット (トワイン) の巻き数設定 (SR-612DN)

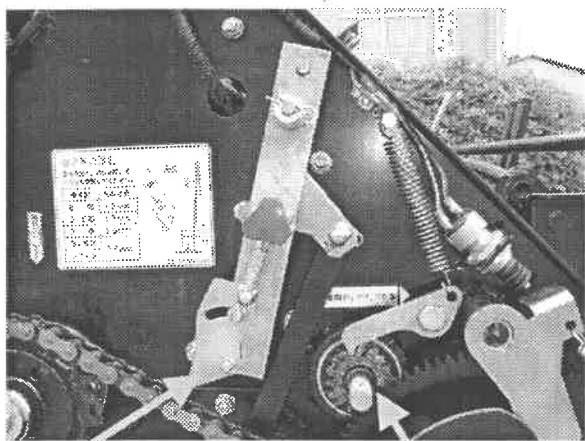
- 成形したロールの外周に巻き付けるネット (トワイン) の巻き数 (巻き時間) を設定します。(巻き数が多い程、ロールが固く締まります。)

フロントカバーミギを外し、巻き数設定装置のノブボルトを回して、巻き数設定表に従い、タイマーネジに対するタイマーナイフの寸法 (A寸法) を設定してください。

運転に必要な装置の取扱い



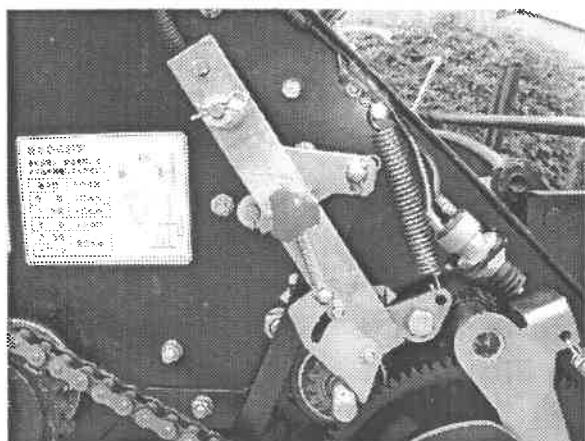
巻き数設定装置（通常状態）



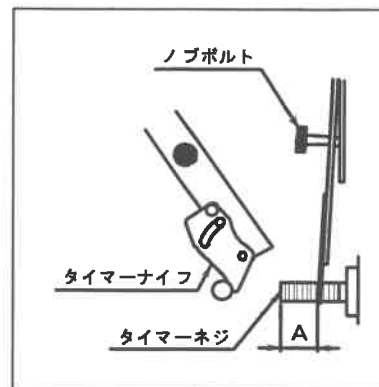
タイマーナイフ

タイマーネジ

巻き数設定装置（ネット又はトワイン繰り出し状態）

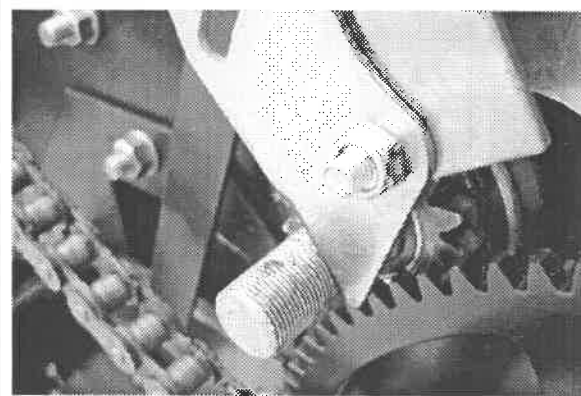


表を目安に
ノブボルト
を回して、
A寸法を調整
してください。



巻き数		A寸法
ネット	2 回	1 2 mm
	2. 5 回	1 5 mm
	3 回	1 9 mm
	3. 5 回	2 3 mm
トワイン		

A寸法はタイマーナイフがタイマーネジに乗っている時の寸法です。



⚠ 警告

ネットの巻き数設定の時は必ず作業機のエンジンを止めてから行ってください。
これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

注意

ネットの巻き数設定を行った後は、必ずタイマーナイフを通常状態に戻してください。

運転に必要な装置の取扱い

24. トワイン案内金具の位置確認② (SR-612DN)

- ◆トワイン案内金具のスタート位置合わせ
作業前に必ず、トワイン案内金具をスタート位置マークに合わせてください。
(段付きプーリーを手で回転させて合わせてください。)

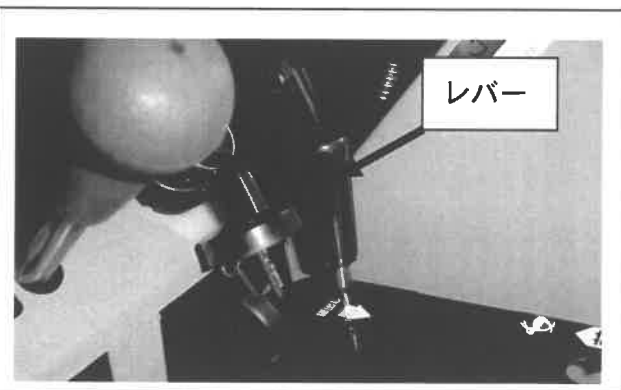


トワイン案内金具

注意

ネット使用時も必ず位置合わせを行ってください。位置合わせをしないと、ネット（トワイン）が切断されません。

25. ネット（トワイン）繰り出しレバー (SR-612DN)



手動でネット（トワイン）を繰り出した時は、レバーを手前に軽く1回引くと、ネット（トワイン）が繰り出されます。

注意

繰り出し中のネット（トワイン）を止める場合は作業クラッチ（またはエンジン）を切ってください。

26. タイトチェーン注油装置の取扱い

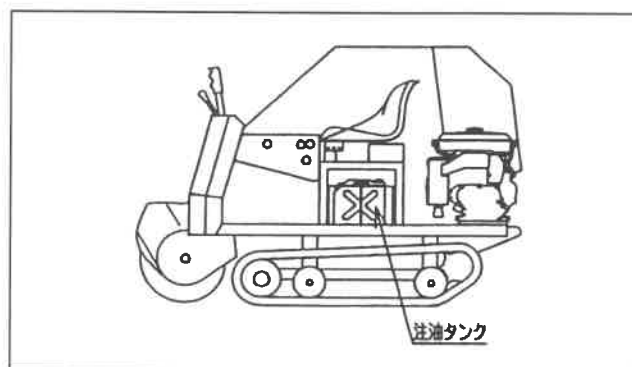
本作業機は、リヤチャンバーを開閉させるとタイトチェーンに油が注油されます。

- ◆作業前には必ず注油してください

作業前には、ベアラ部を回転させながらチャンバー開閉レバーを引き、リヤチャンバーを4～5回開閉させてください。

- ◆作業中は油の残量に注意

注油タンク内のオイル残量には、特に注意して、少なくなれば補給してください。



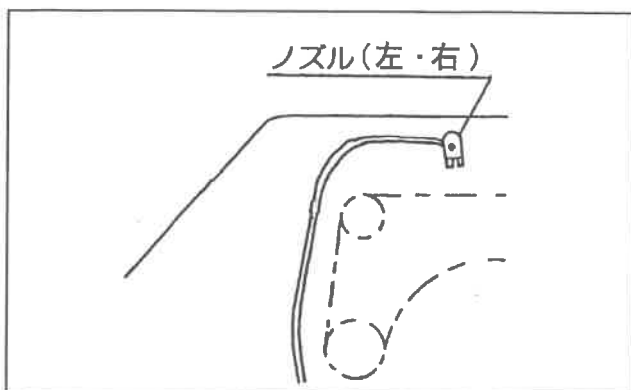
注意

注油タンクのオイル不足によりタイトチェーンに注油されない状態で作業すると、動力負荷が急増してチェーンの摩耗が多くなり寿命を低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

- ◆定期的にノズルの清掃を行ってください

注油ノズルには草やワラが付着しやすいそのまま使用されると、チェーンへの注油がされていないことがありますので、定期的に左右のノズル先端部に付着した草やワラを清掃してください。

運転に必要な装置の取扱い

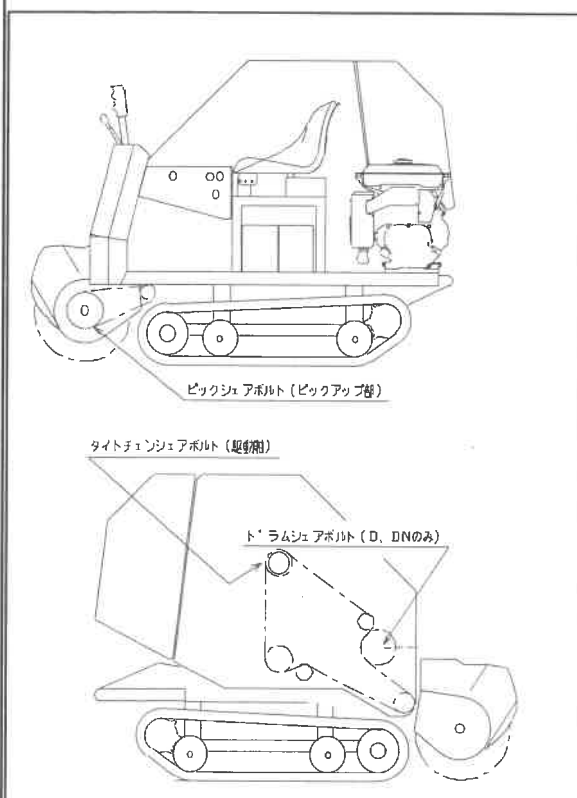


警告

点検・清掃は必ず作業機のエンジンを止めてから行ってください。

これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

27. 安全装置の取扱い



◆シエアボルト（2ヶ所）

本機には、安全装置として駆動軸とピックアップ部の2ヶ所にシエアボルトがあります。（D、DN仕様は3ヶ所）

切損した場合、必ずエンジンを停止してから交換してください。使用するボルトはM8×30（4T全ネジ）です。それ以外のボルトを使用すると、故障の原因となりますので絶対にやめてください。D、DN仕様については、さらにドラムシエアボルトがあります。使用するボルトはM8×30（11T）です。それ以外のボルトを使用すると、故障の原因となりますので絶対にやめてください。

◆シエアボルトがよく切損する場合

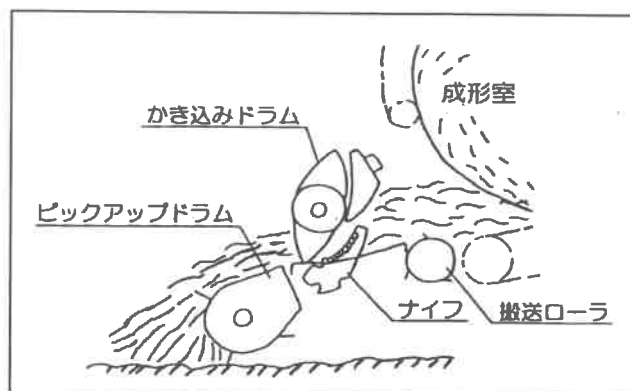
ウインドローが大きい場合、作業速度を遅くしてください。

凸凹の多いほ場では、ピックアップを上げてタインが地面と接触しないようにしてください。

28. 切断装置の取扱い

◆切断装置について

図のように牧草（稲ワラ、麦ワラ）は、ピックアップドラムにより拾い上げられた後、かき込みドラムと3枚のナイフの間で圧縮、切断（理論切断長：16cm）されると同時に成形室に送られ、ベールが形成されます。



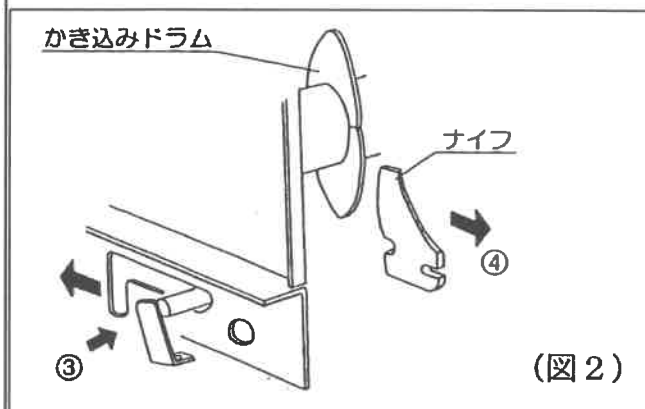
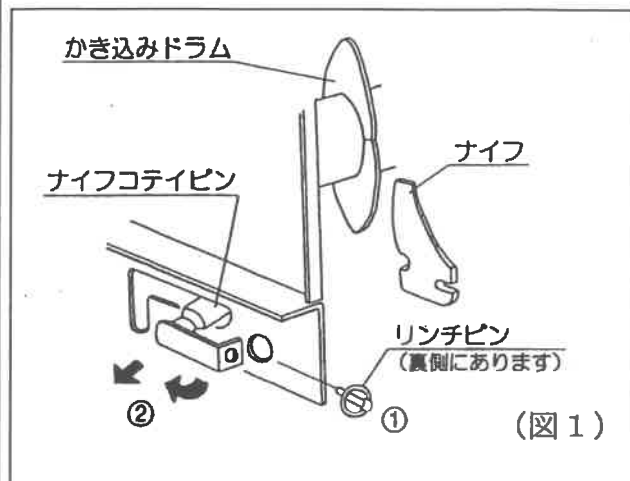
◆ナイフの取り外し（取り付け）方法

次図（図1、2）のように、

- ① リンチピンを外してください。
- ② ナイフコティピンを少し手前に出した後に、反時計回りに少し回してください。

運転に必要な装置の取扱い

- ③ ナイフコティピンを奥に押し込んだ後に、図の矢印の方向へずらしてください。
- ④ 作業機の前側からナイフを外してください。



ナイフを取り付ける時は、①～④を逆の手順で行ってください。

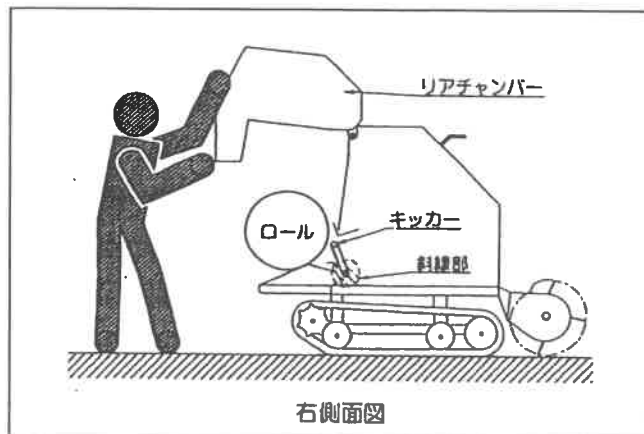
警告

ナイフの取り付け、取り外しは必ず、作業機のエンジンを止めてから行ってください。

29. キッカーの取扱い

◆キッカーについて

本作業機はロール成形後のロール放出を行う為、キッカーを装備しています。



◆リヤチャンバーを手動で開けるときの

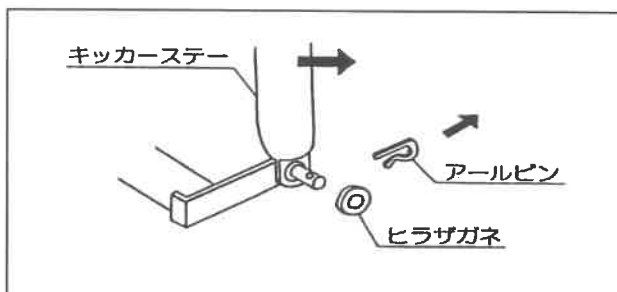
チャンバー内に草が詰まり、ベアラ部が回転しなくなった場合（シェアボルトが切断されていないとき）、リヤチャンバーを手動で開ける事ができます。

下図の様に

① アールピンとヒラザガネを外してください。

② キッカーステーを外してください。

上記を行った後、リヤチャンバーを手で引き上げてください。

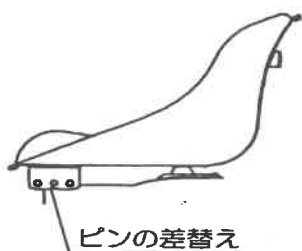


警告

リヤチャンバーを手動で開ける時は、作業機のエンジンを止めてから行ってください。

運転に必要な装置の取扱い

30. シート



シートは取付部のピンの差替えにより、前後3段階の調節ができます。

31. ライトスイッチ



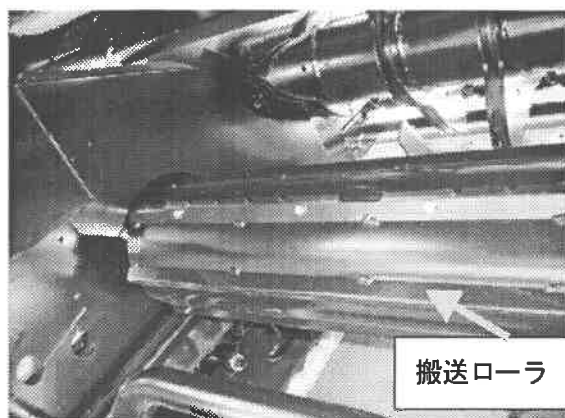
キースイッチが「ON」の状態ですwitchを「ON」にするとライトが点灯します。

注意

エンジンが止まっている状態で長時間ライトを点灯させないでください。バッテリー上がりの原因となります。

32. ワラが詰まる場合

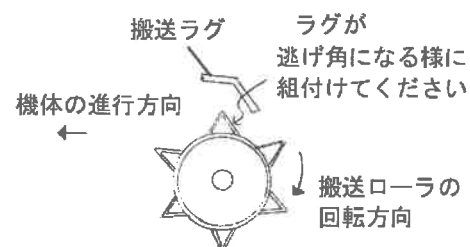
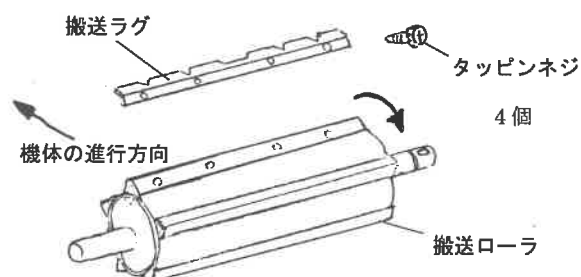
2条刈りコンバインのバラ落しで、ワラの稈長が90cmを超える等、搬送ローラ部にワラが詰まる場合は、搬送ローラに搬送ラグ（標準装備）を組み付けていただく、詰まりにくくなります。



警告

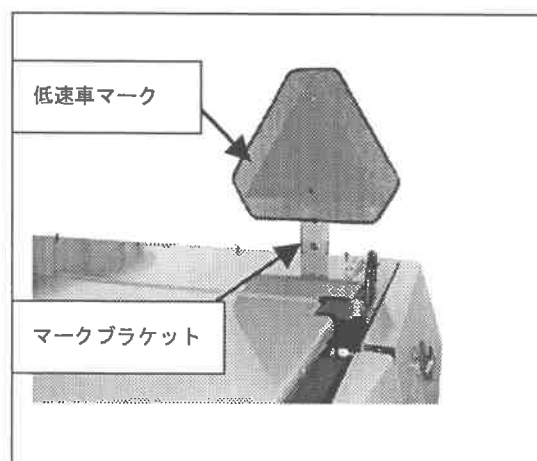
搬送ラグを組み付ける時は、作業機のエンジンを止めてから行ってください。

組付要領



33. 低速車マークの装着

本機は、後続する自動車との追突事故を防止し、運転者の安全性の向上を図る為、お客様が低速車マークを別途購入されて本機に装着する場合に備えて、低速車マークの取り付けブラケットを付属しています。



運転に必要な装置の取扱い

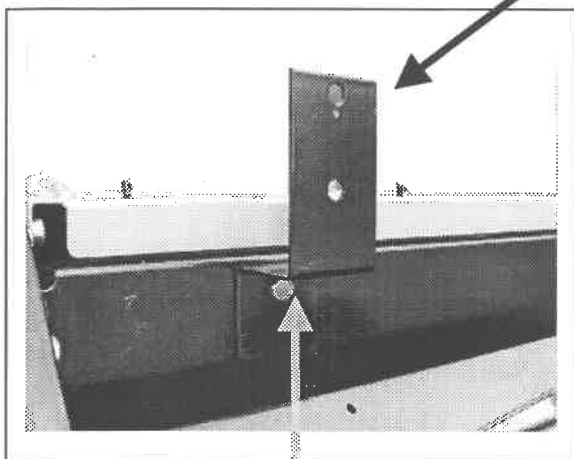
！ 警告

ブラケットを組み付ける時は、本機のエンジンを止めてから行ってください。

◆組み付け要領

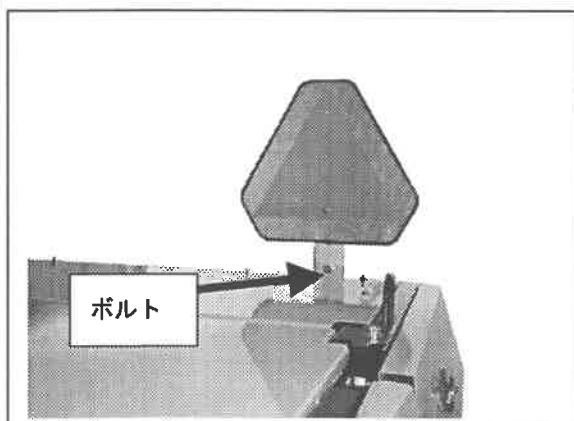
- ①ボルトM8×20とスプリングナットM8をそれぞれ2個用いて、ブラケットを本機へ組み付けてください。

マークブラケット



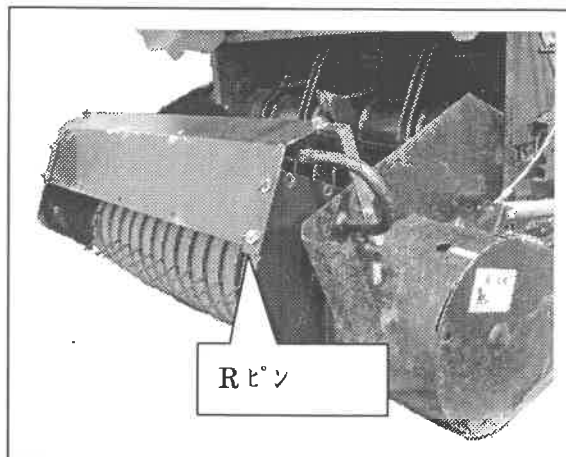
ボルトM8×20+スプリングナットM8 (各2個)

- ②さらに、ボルトM8×20とスプリングナットM8をそれぞれ2個用いて、低速車マークをブラケットへ組み付けてください。



34. 切りわら作業の場合

- ・切りわら作業の場合はピックアップ部の前にカバーを降ろし作業してください。
- ・おろさないと切りわらを前に飛ばしてしまい拾い上げの効率が悪くなります。

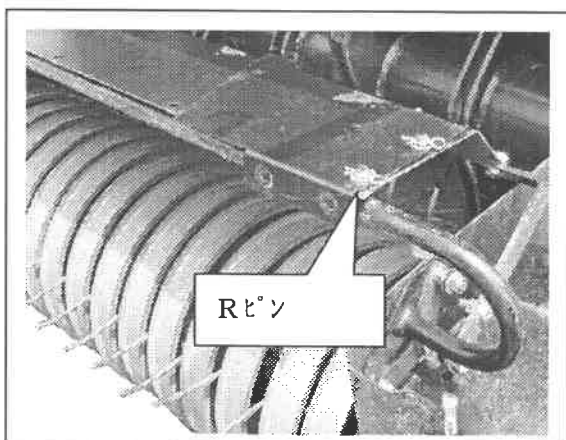


- ・それ以外の作業時においては格納してください。

- ・格納方法については以下の通りです。

- ① 側板を止めている R ピンをはずす。
- ② 側板を外し、格納状態にし再度 R ピンにて固定をする。
- ③ カバーをフックがかかるまで上に持ち上げる。

(再度、作業状態に戻す場合は上記と逆の手順に行ってください。)

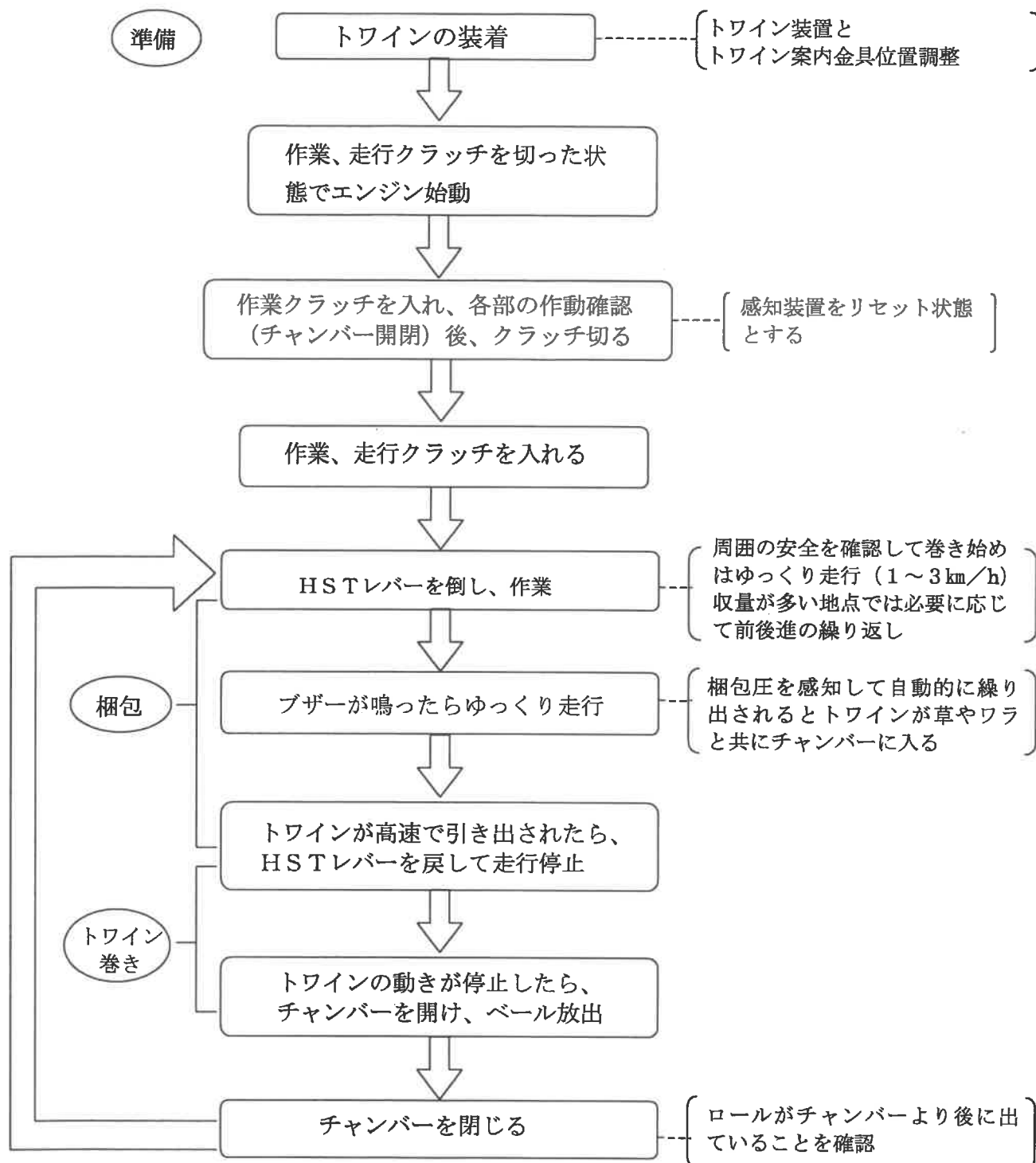


！ 警告

切りわらかバーの操作の際には必ず作業機のエンジンを停止して行ってください。

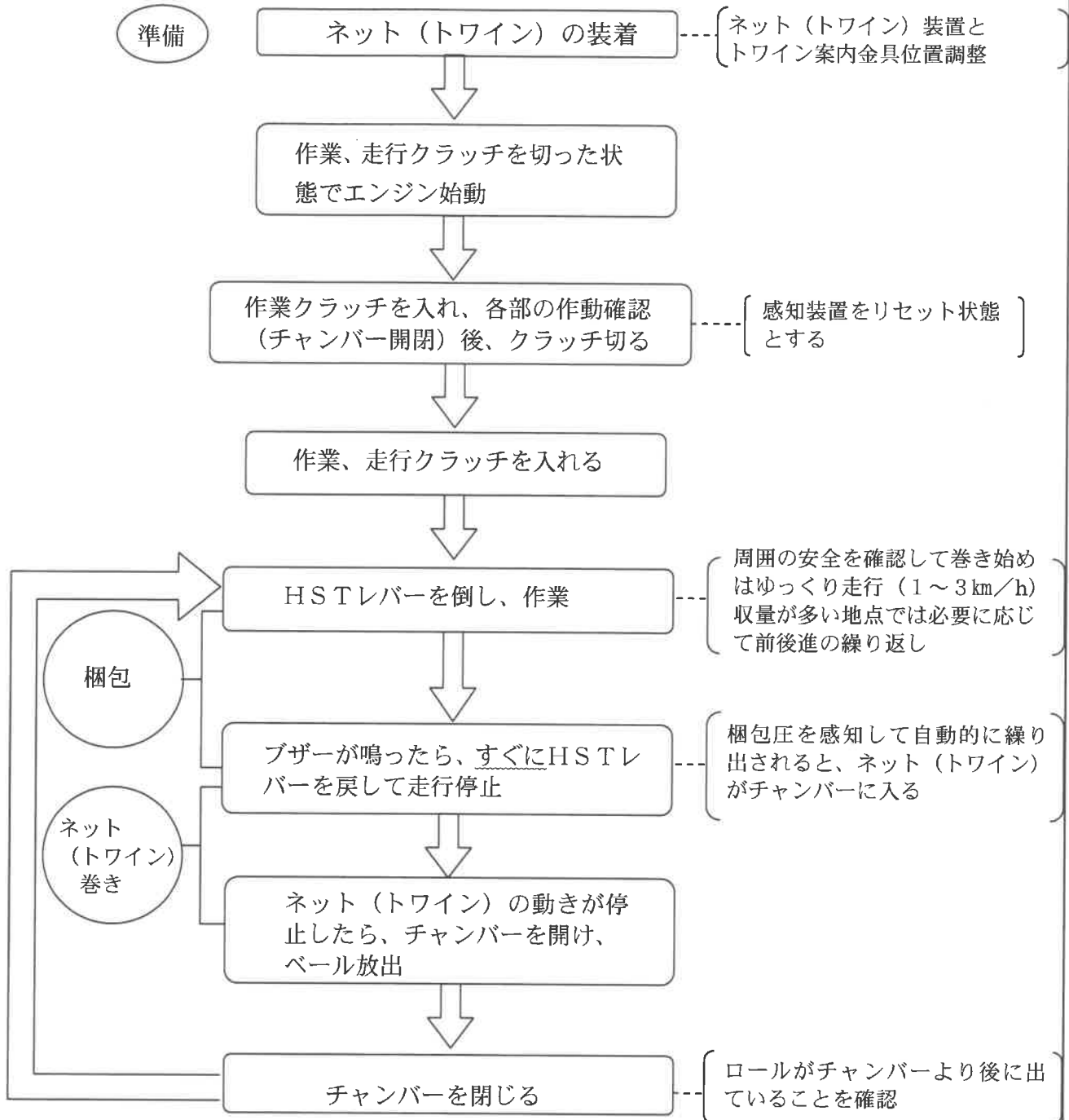
作業方法

1. 作業手順と要点 (SR-612、D)



作業方法

2. 作業手順と要点 (SR-612DN)

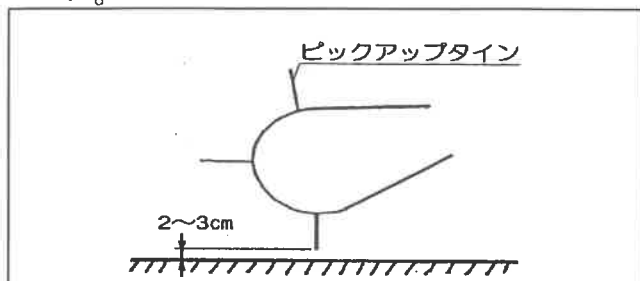


作業方法

3. ピックアップドラムの高さ調整

◆拾い上げ高さ調整

ピックアップドラムの拾い上げ高さはピックアップタインが地上から約2～3cmが基準ですが、ほ場の状態に合わせてピック昇降レバーで調整してください。



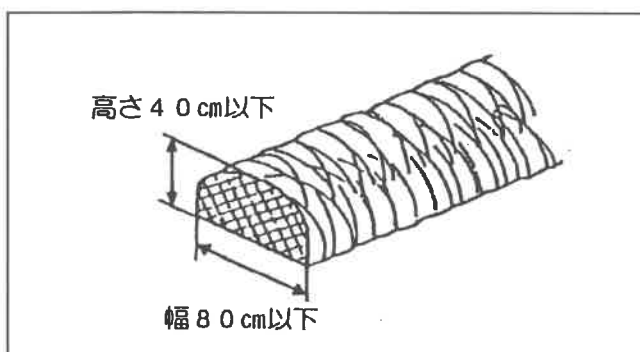
4. 牧草の拾い上げ方法

◆ウインドローを作ってください

牧草の拾い上げ梱包には、必ずウインドローを作ってください。

◆ウインドローの大きさ

ウインドローの大きさは、下図に示す大きさに、できるだけ均一なウインドローにしてください。



注意

ウインドローが大きすぎると詰まりの原因となり能率的な梱包作業ができません。上図の寸法を守ったウインドローを作ってから作業をしてください。

5. 切断ワラと長ワラの拾い上げ方法

◆切断ワラを拾うときはウインドローを作ってください

牧草の拾い上げ梱包と同様に、ウインドローを作って作業すると、能率が上がり、拾い残しも少なくなります。

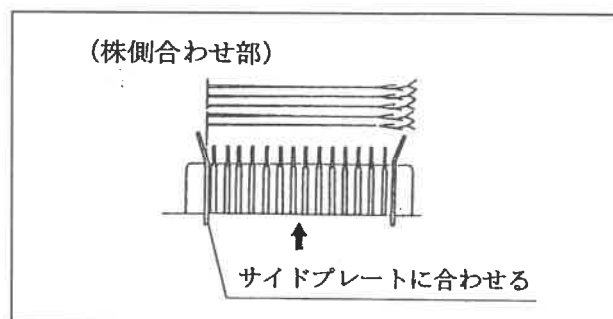
この場合、6～8条分を集めてウインドローを作ってください。

(ウインドローの大きさ及び梱包作業は、前項を参考にしてください。)

◆長ワラ・立ちワラを拾うときは

(3・4条刈コンバインの長ワラたれ流しのときは)

長ワラの株側をサイドプレートに合わせて走行してください。

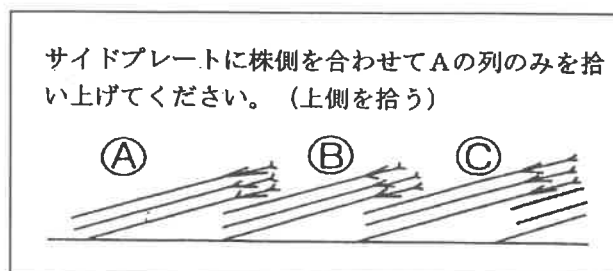


注意

ワラ中央部や穂先をサイドプレートに合わせると、形の悪いロールになり、放出するのに時間がかかるためトワインのゆるみの原因となります。

◆2条刈コンバインの長ワラたれ流しのときは

刈取り後のワラは重なった状態となっています。下図のA、B、Cの順序で拾い上げてください。



作業方法

注意

A、Bを同時に拾い上げると、詰まりの原因となります。

また、ワラの長さが80cm以上のときはAとBの重なりが多くなるため、Bのワラを引きずり込みます。これが原因で詰まりが発生しますので、この場合にはウインドローを作ってから拾い上げてください。

6. 梱包作業方法

◆対象作物の種類、量に合わせて作業速度を選定

長ワラや水分の多い牧草を拾い上げるときは、通常より速度を下げて作業してください。

注意

作業速度が適切でないと詰まりの原因となり能率の良い梱包作業ができません。ウインドローの大きさに応じた速度で作業してください。

- 同じ一列のウインドローの中でもウインドローが大きい場所では減速する。又は一旦後退する。

7. 結束時の注意① (SR-612、D)

- ロールの圧力が設定圧になるとブザーが鳴り、トワインが自動的に繰り出されます。ブザーが鳴ったら速度を下げて走行してください。

注意

自動繰り出しされるトワインは、拾い上げた作物と共にチャンバー内に送り込まれるようにしてください。走行を停止したり、拾い上げ作物がない状態で繰り出すと、チャンバー内に送り込まれず結束ができないばかりか、搬送ローラに巻き付くトラブルの原因となります。

◆トワインの動く速度が早くなったら走行停止

自動繰り出したトワインがチャンバー内のロールに巻かれると、トワインの動く速度が早くなりますので走行を停止して結束が完了するのを待ってください。

◆結束完了

設定の巻き付けピッチによるトワイン結束が終わると、トワイン繰り出しが停止します。チャンバー開閉レバーを引いてロールを放出してください。

8. 結束時の注意② (SR-612DN)

- ◆ ネット巻きの初回は手動繰り出し追加
ネットロールを新規に装着した直後はネットの先端が広がっていないのでロールの両端まで巻けない場合があります。

ネット巻きの初回は、ネットが自動で繰り出しを終えた後、さらに1回手動繰り出しを行う事をお勧めします。

◆SR-612DNではオーバーラン禁止

ロールの圧力が設定圧になるとブザーが鳴り、ネット（トワイン）が自動的に繰り出されます。ブザーが鳴ったらすぐに走行を停止してください。

（草量が多く、走行を停止してもさらに草を拾い上げる場合は、本機を一旦後退させてください。）

注意

オーバーランすると草がネット（トワイン）の間に入り、ロールがきちんと巻けません。

注意

繰出し中は（ネット、トワイン共）、エンジン回転を作業状態のまま維持し、アイドリングにしないでください。
機械と電気のタイミングが合わず繰出し動作が停止しなくなります。

積降ろし運搬・移動

1. トラック・トレーラへの積降ろし

- ①トラック及びトレーラへの積降ろしは、平坦地を選び、補助者1名の立会いのもとで行ってください。
- ②積降ろしに使用するアユミ板は滑り止めのある700kg以上の荷重に耐えられるものを使用し、地面との傾斜角度が15度以内になる長さのものをご使用ください。
- ③アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実に掛けて外れないことを確認してから、本機の積降ろしを行ってください。
- ④積降ろしの際の車速は最低速度で、安全を確認しながら行ってください。
- ⑤トラック及びトレーラへの積込みは、必ず後進走行で行ってください。

⚠ 危険

積降ろし時は、必ず本機より降りて行ってください。

2. トラック及びトレーラでの運搬

- ①本機が運搬中、荷台上で移動しないようクローラに木片などで歯止めをし、機体をロープで荷台に確実に固定してください。

- ②運搬中は、走行クラッチレバーを「切」の位置にしてください。

⚠ 危険

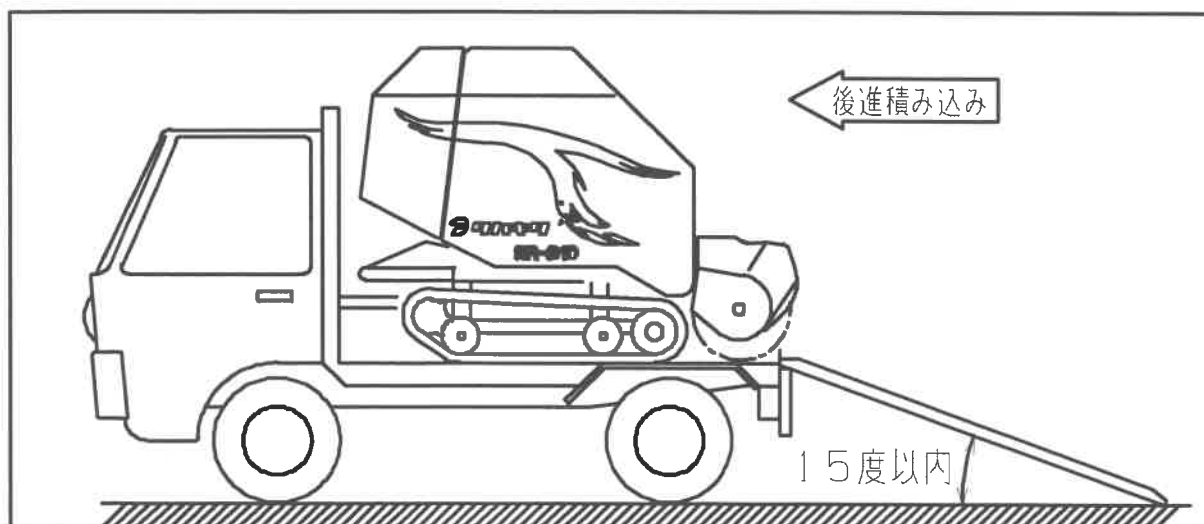
前進積込みは、重量バランスがくずれやすく、危険ですので行わないでください。

3. 移動について

- ・本機の自力走行による長距離移動は機体損傷の原因となるため、長距離移動にはトラックもしくはトレーラをご使用ください。
- ・あぜ越えや田、圃場から出るとき、トラックへの積込み等、傾斜を登る時は必ず機体から降りて作業機を後ろ向きで走行させて下さい。前向きで登ると機体が転倒する恐れがあります。
- 又、傾斜を降りる時は、機体から降りて前向きで降りてください。

⚠ 危険

重量バランスがくずれやすく、危険ですので、傾斜は前進で登らないでください。



作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前の点検は、欠かさず行ってください。



警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときはトラクタのP T Oを切り、エンジンを停止させ、回転部が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照ページ	チェック
1	エンジンの燃料	十分入っているか	別冊説明書	
2	エンジンオイル	規定量が入っているか オイルが汚れていないか	別冊説明書	
3	エンジンのエアクリーナー	オイル量及びの汚れ	3 3	
4	走行ミッション	オイル量及びオイルの汚れ	3 3	
5	H S Tミッション	オイル量及び暖気運転	3 4	
6	走行クラッチレバー	入／切の作動確認	1 3・3 4	
7	作業クラッチレバー	入／切の作動確認	1 5・3 4	
8	左・右のサイドクラッチレバー	スムーズな作動	1 4・3 4	
9	駆動チェーン	注油	4 1	
1 0	トワイン結束装置のチェーン張り調整	少し遊びがある程度に張る	3 5	
1 1	予備シェアボルト	不足の時は補充	2 3	
1 2	タイトチェーン給油	V G 3 2 オイル給油	2 2	
1 3	その他各部注油・グリス	各部への給油参照	4 1	
1 4	クローラ	張り調整	3 3	

点 検 メ モ

簡単な手入れと処置

1. エンジンの点検・調整

※エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」を必ずお読みいただき、日常の点検・整備には万全の注意をお願いします。

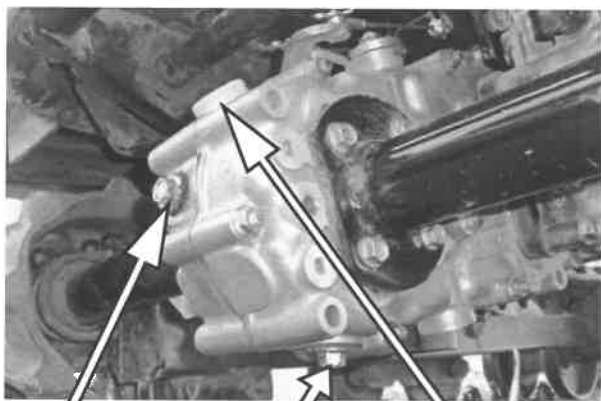
2. エンジンのエアクリーナ

・ガソリンエンジンのエアクリーナはオイルバス式のエアクリーナを採用しています。(SR-612M)

始業前にオイルが入っているか、確認をしてください。不足していれば補充し、オイルがゴミやホコリ等で汚れている場合は、新しいオイルに交換してください。(オイル：エンジンオイルと同等品)

・ディーゼルエンジンのエアクリーナは乾式濾紙エレメント式のエアクリーナを採用しています。(SR-612D SR-612DN)
「エンジン取扱説明書」に従い、始業前に点検、清掃、交換してください。

3. ミッションオイルの点検



検油栓

ドレン

注油栓

走行ミッションのオイル交換は、初回は30時間後、2回目以降は年1回シーズン始めに交換してください。

●オイル：ギヤオイル #90

●油量：約1.1ℓ
(検油栓からあふれるまで)

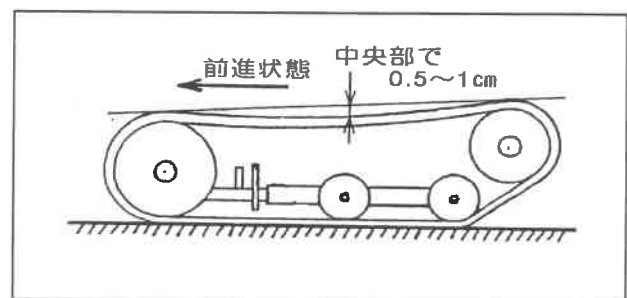
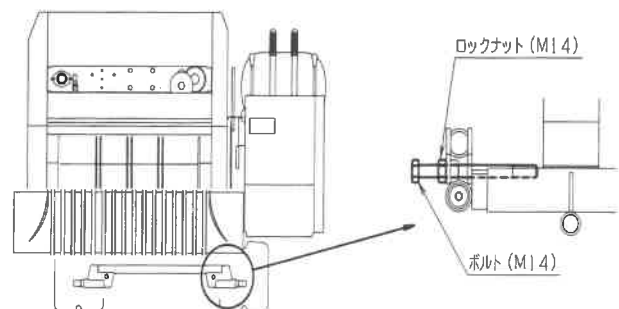
4. クローラの張り調整

クローラは使用している間に伸びと摩擦により、たわみが大きくなります。定期的にたわみ量を確認し、調整してください。

※調整方法はロックナットをゆるめ、ボルトを締め込みます。

クローラの張り具合は、本機を前進状態で停止させ、クローラ上に定規を置き、中央でたわみ量が0.5～1cmが適正です。

調整は、必ず左右のクローラを均等に行ってください。



注意

- 調整は平坦地を選び、エンジンを停止してから行ってください。
- 調整後、ロックナットは確実に締め込んでください。
- ボルトのネジ部に調整後、グリスを塗布しておくことで錆の発生を防ぎ、以後の調整が容易となります。
- クローラの張りすぎにご注意ください。
作業中、クローラ内接面に土が多量に付着した場合は、都度エンジンを停止し除

簡単な手入れと処置

去してください。

また、使用後は付着した土を水洗い除去してください。

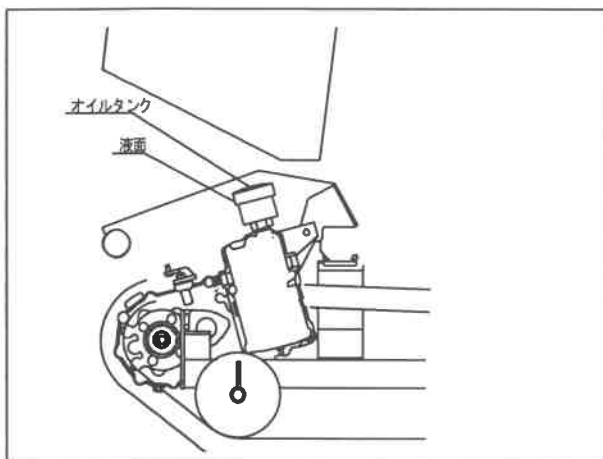
土噛みは放置しておく、クローラの異常張力の原因となり、走行ミッション及び走行部の損傷をまねきます。

5. HSTミッションのオイル管理

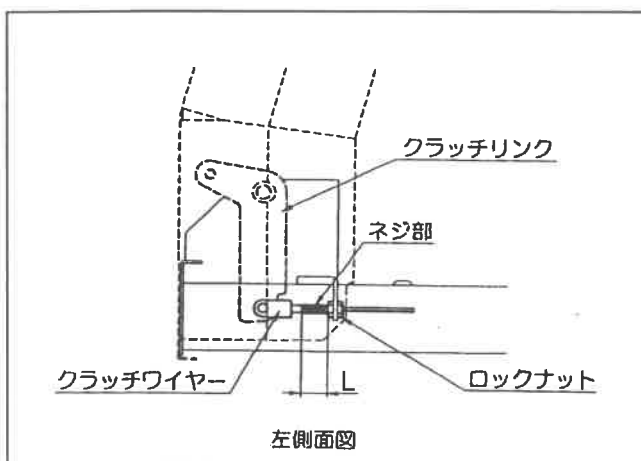
- 毎日の作業前にはオイルもれがないか、オイルタンクのオイル量が適量かどうかを確認してください。
- オイル量が不足している場合は、オイルタンクの表示位置まで指定のオイルを補給してください。

※HST用指定補給オイル：

SAE 10W-30 CD級エンジンオイル、
もしくは、ISO VG46 耐摩耗性作動油



6. 走行クラッチ・作業クラッチの調整



使用している間にクラッチワイヤーの伸びや各部に遊びが発生し、調整が必要

となります。

- 「入」の時にVベルトが駆動し、「切」の時にVベルトが停止すれば正常です。
- 「入」の時にVベルトがスリップするようなら、クラッチワイヤー両端のネジ部のL寸法が短くなるようにスパナで調整してください。
- 「切」の時にVベルトが停止しない場合は、逆にL寸法が長くなるようにスパナで調整してください。

注意

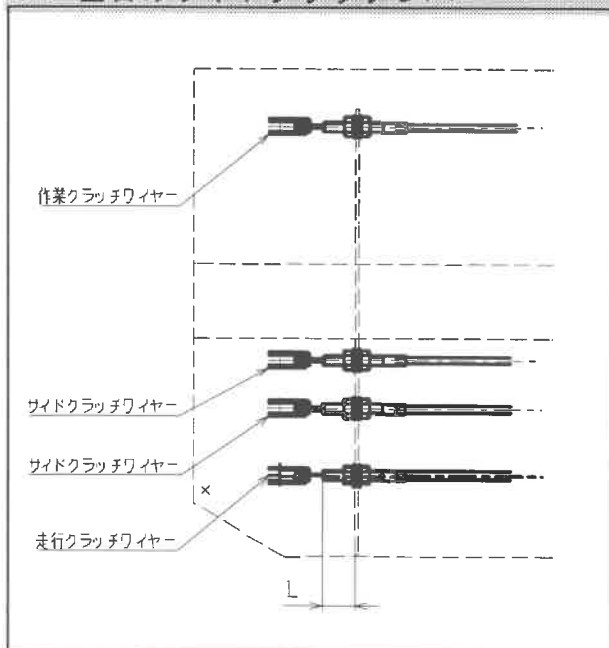
調整しても、各クラッチレバーが「入」状態でVベルトがスリップする時は、Vベルトの交換もしくはクラッチワイヤーの交換が必要です。

販売店にご相談ください。

警告

作業前には必ず走行クラッチ、作業クラッチの作動確認を行ってください。
緊急時にクラッチが切れないと、重大な傷害が生じる危険があります。

7. 左右のサイドクラッチレバー



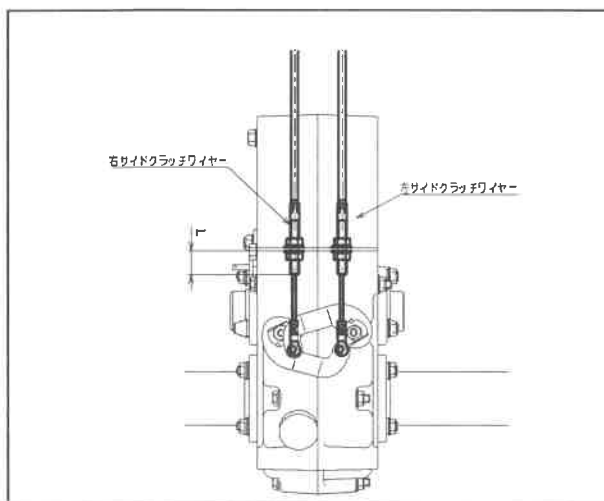
長期間使用している間にサイドクラッチの各部に遊びが発生し、調整が必要と

簡単な手入れと処置

なります。

- ①変速レバーを低速の位置に入れ、ごく低速で走行してください。
- ②左右のサイドクラッチレバーを交互に数回ずつ手前に引き、左右への旋回が問題ないかを確認してください。
- ③左右いずれか旋回時のサイドクラッチの切れが悪い場合は、切れが悪い方のクラッチワイヤー両端のネジ部のL寸法が短くなるよう、スパナで調整してください。

上記L寸法に余裕がない場合は、下図の様に走行ミッション側の両サイドクラッチのL寸法を変えることにより（クラッチワイヤーの切れが悪い場合はL寸法を短く）サイドクラッチワイヤー側の調整を行ってください。



- ④調整後、ロックナットはスパナで確実に締め付けてください。

注意

- サイドクラッチの調整においては、調整後、必ずサイドクラッチレバーが「切」の位置で、クラッチ金具に多少の遊びがあることを確認してください。
- クラッチ金具の作動に遊びがないと、走行ミッション内の爪クラッチの損傷の原因となります。

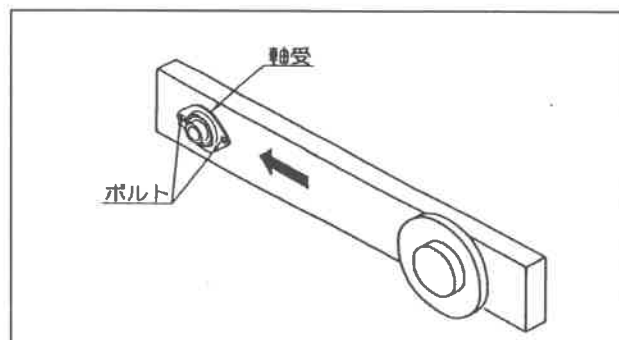
！ 警告

- ①チェーンの張り調整や、各部の調整をする時は、必ずエンジンを停止させて回転部が止まってから行ってください。
- ②取り外したカバー類は、必ず取付けてください。

8. トワイン結束装置の調整（全型式共通）

◆トワイン案内金具がスムーズに移動しないとき

- ①チェーンの油切れ
・・・注油する。
- ②チェーンのゆるみ
・・・軸受のボルトを少しゆるめて軸受を矢印方向へずらしてください。
その後、ナットで固定します。

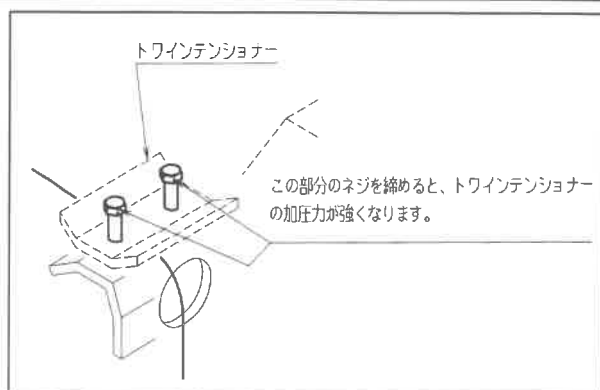


9. トワイン繰り出し調整（全型式共通）

- ◆トワインの材質により調整が必要です
トワインはPP、サイザルおよびジュートが使用できますが、材質やメーカーによって多少性質が異なりますので、トワインテンショナーにより適度な加圧力に調整してください。

- ◆トワインテンショナーのはたらき
段付きプーリー上でトワインがスリップしないようにトワインの種類に合わせて調整するためのものです。

簡単な手入れと処置



◆トワインが繰り出しローラーより出ていかないとき

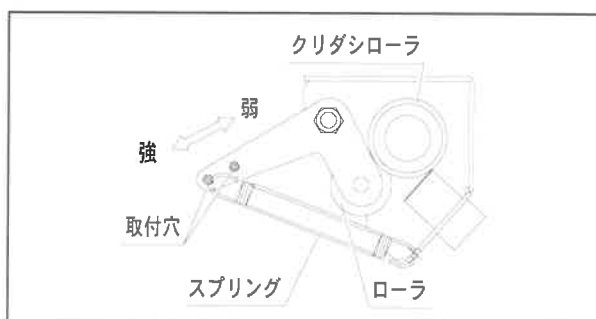
- ①トワインが、どこかに引っかかっているか。
……点検修正。
- ②トワインテンショナーの押えが強すぎないか。
……押え力を小さく調整。

◆トワインが段付きプーリーで滑るとき

- ①段付きプーリーに1～2回巻き付けているか。
……1～2回反時計方向に巻き付ける。
(SR-612、Dのみ)
- ②トワインテンショナーの押えが弱い
……ナットを締め込み押えを強くする。

◆サイザルやジュート等トワインが切れすぎるとき

- ①トワインテンショナーの押えが強すぎる。
……ナットをゆるめて弱くする。
- ②トワイン張力の調整
……バネを「弱」側へ付替えてください。



③それでも切れる時

……引っ張り強度30kg以上のトワインと交換する。

10. ネット（トワイン）繰り出し調整 (SR-612DN)

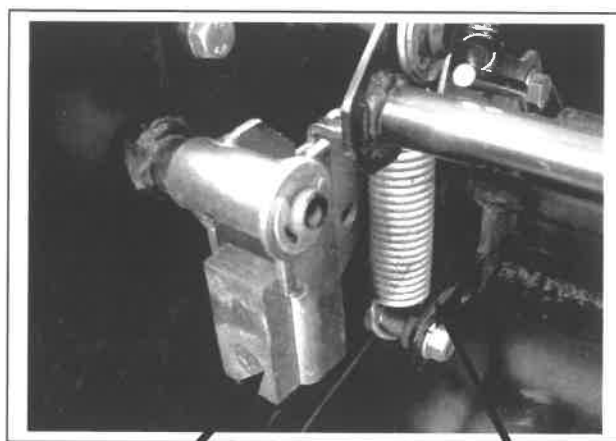
ネット（トワイン）の材質や、梱包する草の種類によっては調整が必要です。

！ 警告

- ①ネット（トワイン）調整を行う場合は、必ずエンジンを停止させて回転部が止まってから行ってください。
- ②取り外したカバー類は、必ず取付けてください。

◆ ネットブレーキ調整

スプリングの位置変更により、ネットブレーキの強弱が調整できます。



ネットブレーキ

スプリング

◆ ネット（トワイン）を繰り出したのに引き込まれない。

- ① ネットブレーキを少し緩めてください。
- ② 梱包密度を上げられるなら、上げてください。
- ③ 満量時に繰り出す場合は再度手動で繰り出してください。

注意

ブレーキドラム外周に錆があると、ブレーキ力が大きくなり、ネット（トワイン）が引き込まれない場合があります。

その場合は再度、手動で繰り出してください。

防錆のためにブレーキドラムにグリス等を塗ると、ブレーキ力が小さくなりますので厳禁です。

簡単な手入れと処置

◆ ネット巻きがゆるい

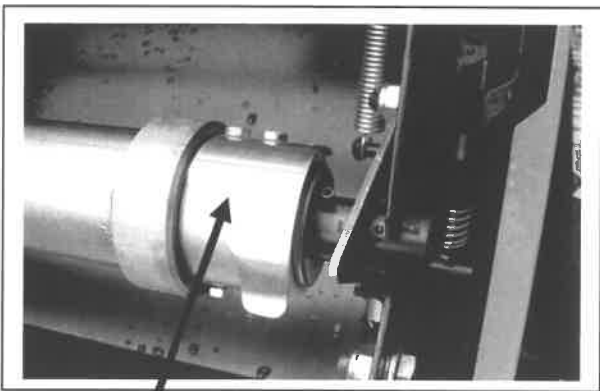
- ① ネット挿入方向が誤っていませんか。……修正
- ② ネットの通し方が誤っていませんか。……修正
- ③ ブレーキ力が弱い……
ブレーキ力を一段強くしてください。
- ④ ネットの間に草が入っている…
・ブザーが鳴ったらすぐに走行停止
または後退してください。
・巻き数を増やしてください。

◆ ネットが引きちぎれる……

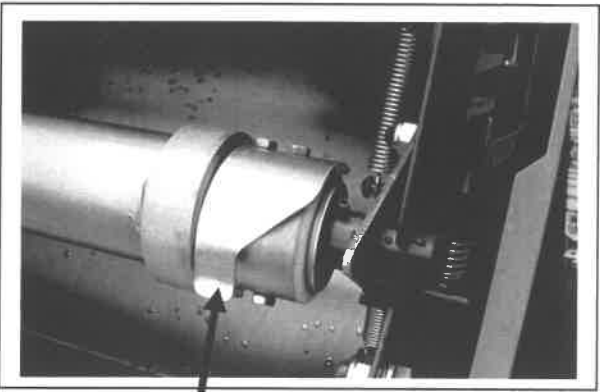
ネットブレーキを緩めてください。

1 1. 幅のせまい（幅 690mm）ネットを使用する場合（SR-612DN）

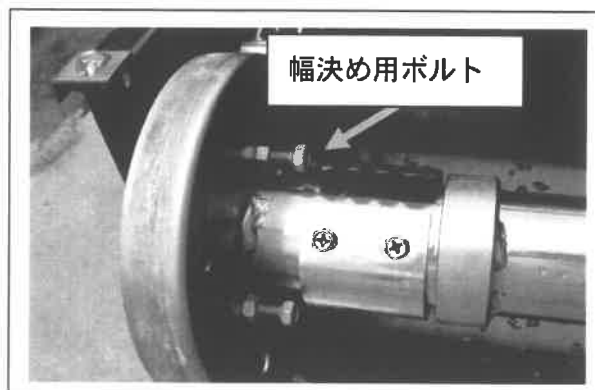
ブレーキドラム部の抜け止めプレート
を付属のものと交換し、反対側には幅決
め用のボルトを取付けてください。



抜け止めプレート L（通常）



抜け止めプレート S（幅のせまい時）



幅決め用ボルト

1 2. ネットがゴムローラに巻きついた場合の処置（SR-612DN）

ネットが引きちぎれた後に手動繰り出しを
すると、ネットがゴムローラに巻き
つくことがあります。巻きついた場合、
以下の手順でネットを解いてください。

- ① エンジンを停止し、フロントカバーミ
ギを開けてください。
- ② ゴムローラを駆動しているピニオン
ギアにかみ込んでいるラチェット（ゴ
ムローラの逆転を防止しています）
を上げ、リンチピンなどをはさんでく
ださい。

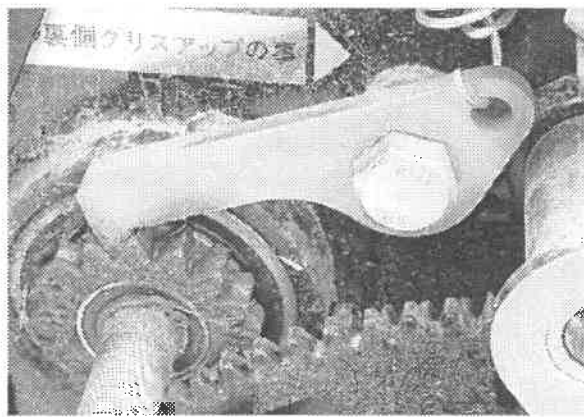


ラチェット

ピニオンギア

リンチピン

簡単な手入れと処置

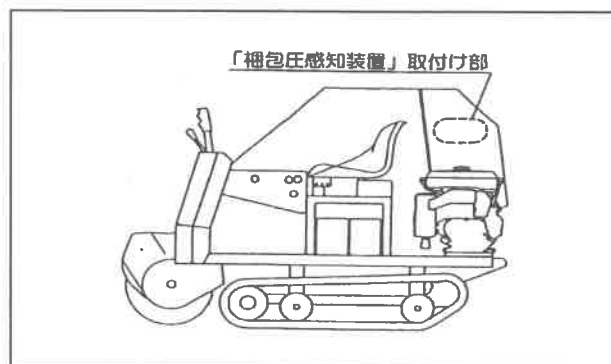


警告

- ① ネットの処理を行う場合は、必ずエンジンを停止させて回転部が止まってから行ってください。
- ② 取り外したカバー類は、必ず取付けてください。
- ④ 巻きついているネットを引き抜いてください。
- ⑤ ネットロールに巻き戻してください。
- ⑥ ラチェットを元に戻してください。
- ⑦ フロントカバーミギを取り付けてください。
- ⑧ ネットを通してください。

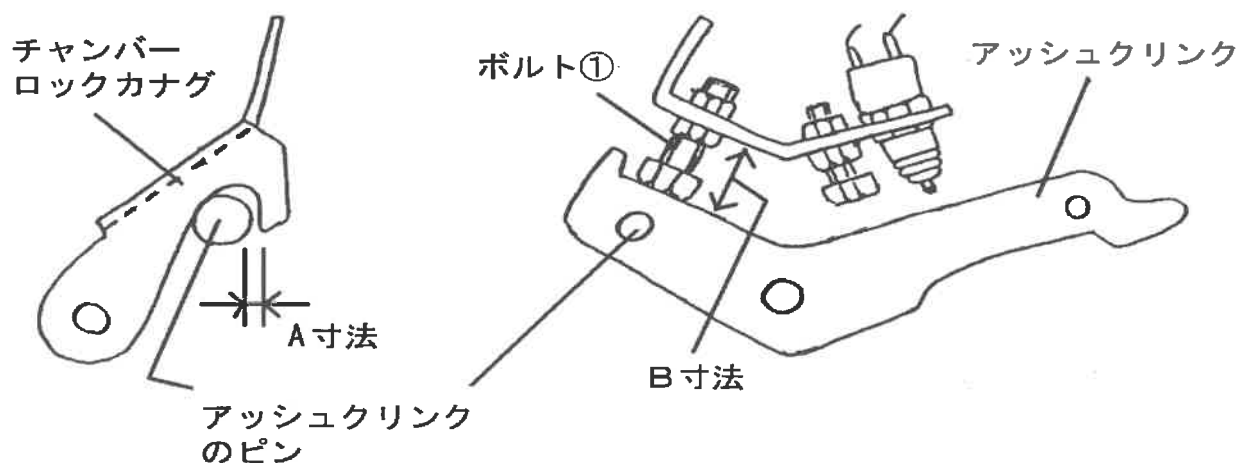
13. チャンバー開閉調整

チャンバー開閉レバーを引いてもチャンバーが開かない場合や、作業途中でチャンバーが大きく開いてしまう場合は、進行方向左側のサイドカバー内側にある、梱包圧感知装置部分の調整により、改善可能です。



① チャンバー開閉調整の方法

- リヤチャンバーが閉じている状態の下図のチャンバーロックカナグの A 寸法を調整します。
A 寸法の適正寸法は 1 ～ 2 mm です。
- A 寸法を調整する為に、図中のボルト ① を調整します。(ボルト ① を調整する時はリヤチャンバーを開けた状態で行うと作業が行い易いです。)



簡単な手入れと処置

◆チャンバーが開かない場合は

ボルト①のB寸法を短くします。

(B寸法を短くするとA寸法は小さくなります。)

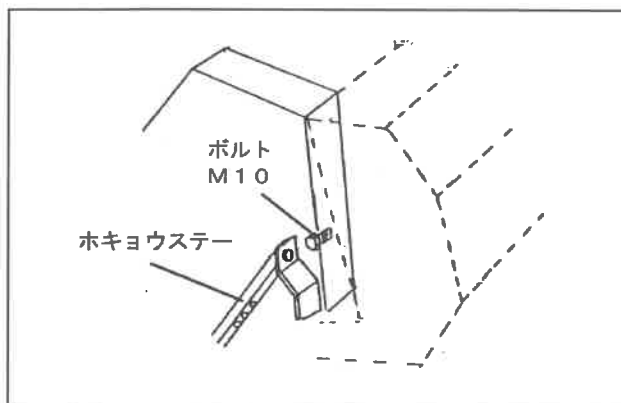
◆作業途中でチャンバーが大きく開く場合は(チャンバーロックカナグがかからない場合)

ボルト①のB寸法を長くします。

(B寸法を長くするとA寸法は大きくなります。)

② チャンバー開閉調整の確認方法

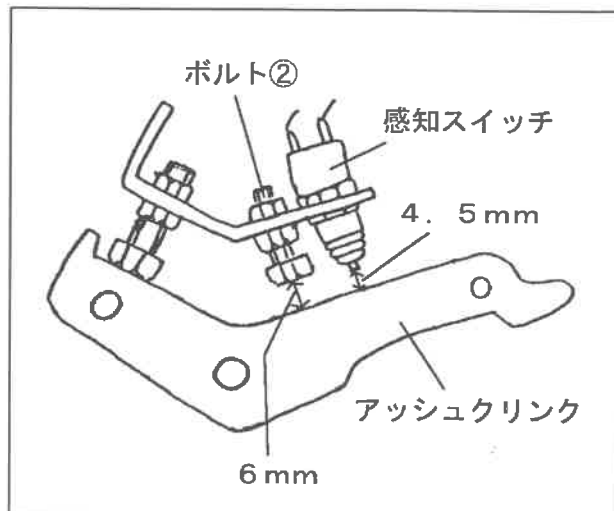
●A寸法が正しいかどうか確認します。チャンバーの間に(下図のように補強ステーの根元の位置前後)M10のボルト(直径10mm程の物であれば代用できます。)を挟んだ状態でチャンバーロックカナグのA寸法がほぼ0(すれるくらい)に調整すると、A寸法が1~2mmになります。



③ ロール成形終了時の感知タイミングの調整方法

- 前ページのボルト①を調整するとロール成形終了時の感知タイミングが変わりますので、感知タイミングを規定値に戻します。

リヤチャンバーが閉じている状態で次図のボルト②と感知スイッチの調整(出し入れ)を行い、ボルト②とアッシュクリンクの隙間を6mm、感知スイッチとアッシュクリンクの隙間を4.5mm程に調整してください。

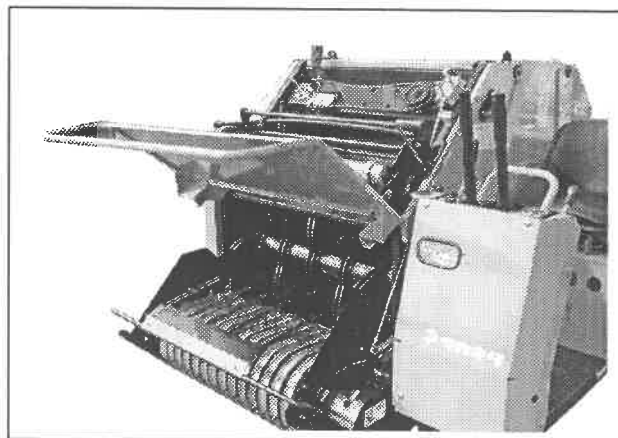


! 警告

- ① チャンバー開閉調整や、各部の調整をする時は、必ずエンジンを停止させて回転部が止まってから行ってください。
- ② 取り外したカバー類は、必ず取付けてください。

14. クロップカバーの開け方

クロップカバーを上上げる事によりナイフの交換や掃除が行い易くなります。



簡単な手入れと処置

- クロップカバーを開けている状態ではエンジンは始動できません。

！ 警告

クロップカバーの開閉は、必ずエンジンを停止させてから行ってください。注意を怠ると重大な傷害が生じる危険があります。

15. 切断ナイフの手入れ

◆定期的に研磨する

ナイフは特殊鋼の焼入れを行って減り難くなっていますが、定期的に研磨しないと切れ味が悪くなり、馬力を喰う原因にもなります。

稲ワラ作業の場合、少なくとも500ロールに1回、牧草でも1000ロールに1回は研磨することをおすすめします。

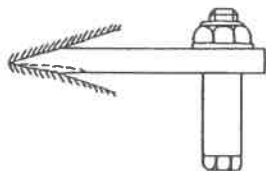
◆ナイフの外し方

P24を参照してください。

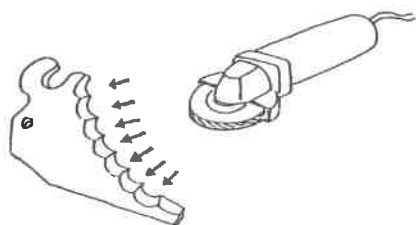
◆ナイフのとき方

仕上用のジスクホイールで色が変わらないよう、徐々に削ってください。

① 表裏共一面に仕上げる



② 切り込みに合わせて削る



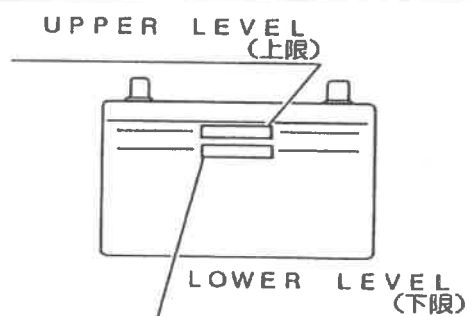
注意

一気に削ると焼なましとなりナイフの減りが早くなります。少し削って冷やす、を繰り返してください。

！ 注意

ナイフの取扱いには十分注意してください。

16. バッテリーについて



バッテリーの電解液中の水は蒸発して減少します。液面が、**LOWER LEVEL**と**UPPER LEVEL**の間であれば適正です。

少ない時は、蒸留水またはバッテリー補充液を補給してください。

！ 注意

- バッテリーからバッテリーケーブルを外す時は（－）側から外し、取付ける時は（＋）側から行ってください。逆にすると、バッテリーケーブルが本機に当たった場合にショートして火花が生じ危険です。
- バッテリーにケーブルを接続するとき（＋）と（－）を間違えないようにしてください。もし間違えると、バッテリーや電装品を破損させます。

簡単な手入れと処置

！ 注 意

- バッテリー液は過不足がないようにしてください。
多いと液があふれて本機を腐食させ、少ないとバッテリーの極板が破損し、寿命が短くなります。
- 冬期間は充電不足にならないように注意してください。
放電ぎみですと電解液が凍り、バッテリー本体を破損させる場合があります。
- 長期間本機を使用しない場合は1～2ヶ月に1度は補充電してください。
定期的に比重を測定し、バッテリーの状態を確認してください。
比重が1.22～1.28であれば正常です。

バッテリーは引火性ガスを発生しますので取扱いを誤ると爆発や大けがをすることがあります。

(特に保守、点検、充電等、ブースターケーブル使用時には危険のないように取扱ってください。)

- 火気厳禁
……ショートやスパーク、たばこなどの火気を近づけないでください。
⇒爆発
- 通風のよい所で
……締めきった場所での使用や充電は危険です。 ⇒爆発
- バッテリー液は希硫酸
……皮膚、目、衣服につくと危険です。
⇒やけど、失明

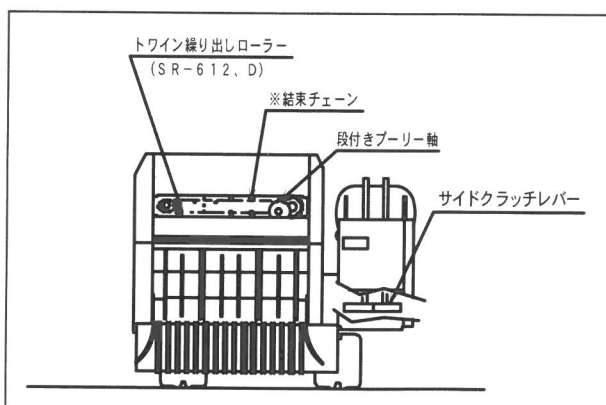
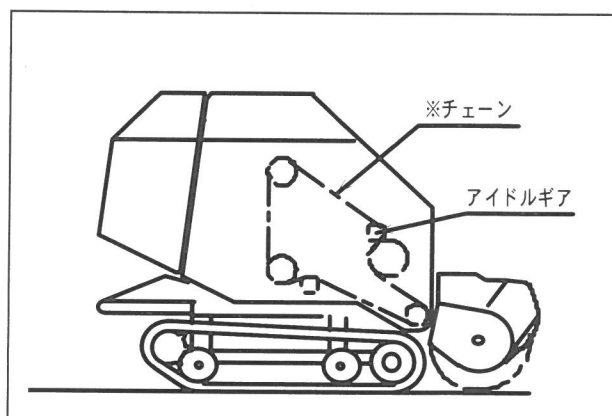
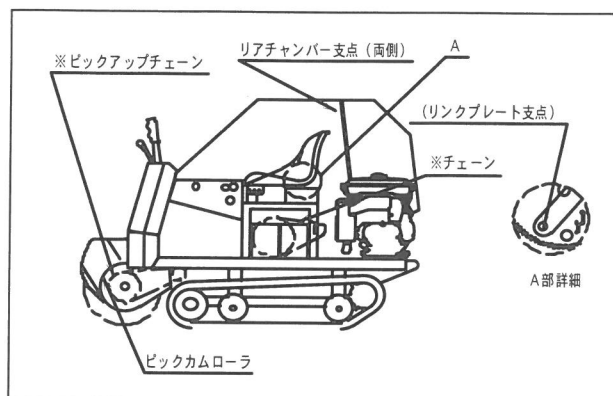
《応急手当》

- 皮膚、衣服についた時は、多量の水で洗ってください。
- 目についた時は、ただちに多量の水で洗い、医師の治療を受けてください。

17. 各部への注油・グリスアップ

下図の各部へ注油・グリスアップを行ってください。

- 図中※印は注油を行う箇所です。



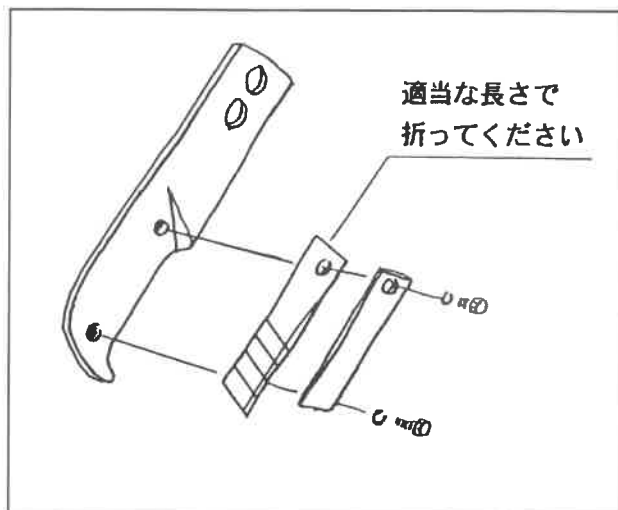
！ 注 意

各チェーン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には十分注油してください。また、部品が摩耗したまま使い続けると、摩擦による加熱の原因となり、場合によっては火災となります。

簡単な手入れと処置

18. トワイン切断ナイフの交換 (SR-612、D)

トワインの切断が不安定になってきたら、金物店やスーパー等で販売しているオルファ大型刃LB-10Bをお買い求め、交換してください。



！ 注意

ナイフ交換には十分注意してください。

19. 長期格納時の手入れ

作業が終了しましたら次期の使用時に備え、かつ末永くご利用いただくためにも、十分なお手入れを行ってください。

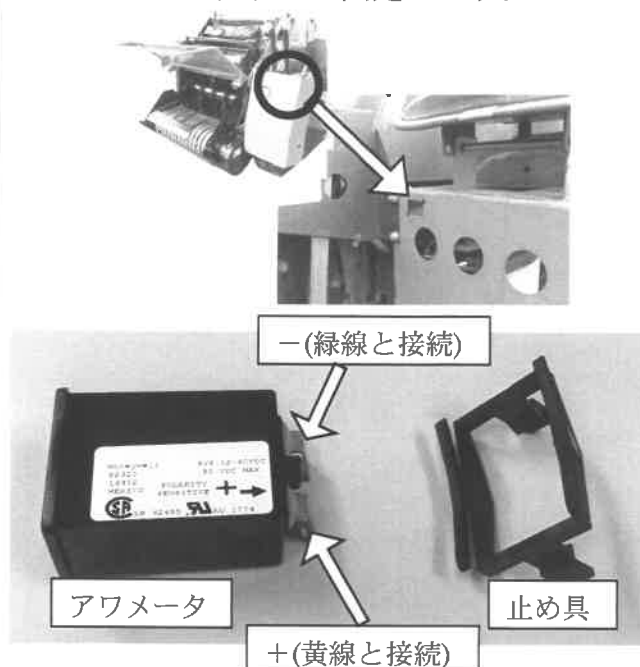
- エンジンについては、別冊のエンジン取扱説明書を必ずお読みいただき、日常の点検・整備には万全の注意をお願いします。
- 水洗いして付着した泥やホコリなどを落とし、巻き付いた草などを取り除いてください。
- 乾燥後は、各回転・摺動部やチェーン類には十分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、補修塗料などを塗って錆が出ないようにしてください。

- 各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいる時は締めてください。

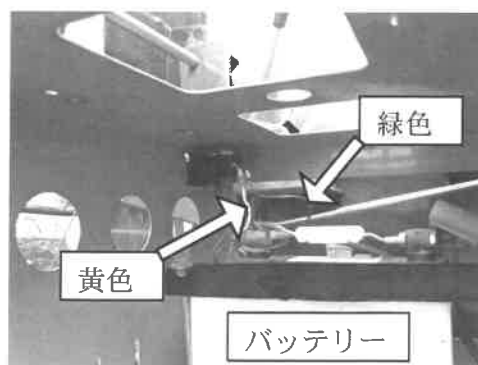
- 格納は、雨やホコリのかからない屋内の平坦な場所に保管してください。

20. アワメータの取付け方法 (別売)

- ①図の位置にアワメータを差込み、裏から止め具を装着して固定します。



- ②バッテリーにつながっているハーネスと同じところより、黄色と緑色の線が出ています。黄色の線を「+」側に、緑色の線を「-」側につないでください。(逆に接続するとアワメータが動作しません。)



アワメータ品番 00921-1000-010

不 調 診 断

不 調 内 容 (全型式共通)	診 断	処 置	参 照 ページ
●拾い上げ部に草がつまる	●集草列が大きすぎる	●集草列を小さくする	2 9
	●車速が早すぎる	●車速を落として作業する	1 3
	●作物が漏れている	●予乾をする	—
●テーパー状のバールができる	●集草列の片側を走行している	●集草列の中央を走行する	—
	●長ワラの場合は株側をサイドプレートに合わせて走行していない	●株側をサイドプレートに合わせて走行する	2 9
●タイトバーが異常に振動する	●タイトチェーンの油切れ	●チェーンに十分注油する	2 2
●タイトバーもピックアップドラムも回転しなくなった	●駆動軸のシェアボルトが切断した	●シェアボルトを交換する 01114 5080 300 (M8×30 4T 全ネジ)	2 3
●ピックアップドラムが回転しなくなった	●ピックアップ軸のシェアボルトが切断した	●シェアボルトを交換する 01114 5080 300 (M8×30 4T 全ネジ)	2 3
		●集草列を小さくする	2 9
		●車速を遅くする	1 3
●タイトチェーンが異常に振動する	●梱包密度が高すぎる	●作物に応じた設定密度にする	1 6
	●タイトチェーンの油切れ	●注油する	2 2
		●注油タンク油量を確認する	2 2
●リヤチャンバーが開かない	●駆動軸のシェアボルトが切断した	●シェアボルトを交換する 01114 5080 300 (M8×30 4T 全ネジ)	2 3
	●チャンバーロックカナグの隙間調整が大きすぎる。	●チャンバー開閉調整を行う	3 8
●作業途中でリヤチャンバーが大きく開く	●チャンバーロックカナグの隙間調整が小さすぎる。	●チャンバー開閉調整を行う	3 8
不 調 内 容 (SR-612、D)	診 断	処 置	参 照 ページ
●トワイン案内金具が作動しない	●トワイン段付きプーリーで滑ってしまう	●断付プーリーの巻き数を多くする	1 6
●トワインが結束途中で切断される	●トワインが途中で詰まっている	●トワインを入れ直す	1 6
●チャンバー内がいっぱいになってもブザーが鳴らない	●トワイン案内金具が所定の位置にない	●案内金具を所定の位置(貼付マークの位置)に置きなおす	1 7
	●梱包圧感知用スイッチがこわれている	●スイッチを交換する	—

不 調 診 断

不 調 内 容 (SR-612DN)	診 断	処 置	参 照 ペ ー ジ
● ネット（トワイン）は繰り出したが、チャンバー内に引き込まれない	● ネットブレーキが強い	● ネットブレーキを緩める	3 6
	● 作物が漏れている (麦稈等、滑りやすい作物)	● 予乾をする	—
		● 梱包密度をあげる	1 6
	● ブレーキドラム外周に錆がある	● 何度か手で繰り出す。	2 2
● ネットが引きちぎれる	● ネットブレーキが強い	● ネットブレーキを緩める	3 6
● ネットが切断されない	● トワイン案内金具が所定の位置にない	● トワイン案内金具を所定の位置（貼付マークの位置）にする	2 2
● ネット巻きがゆるい	● ネットの挿入方向が誤っている	● ネットを正しく挿入する	1 9
	● ネットの通し方が誤っている	● ネットを正しく通す	2 0
	● ネットブレーキが弱い	● ネットブレーキを強くする	3 6
	● その他	● ネットの巻き数を増やす	2 1
● ネットがきちんと巻けていない (ネットの間に草が入りこんでいる。)	● ブザーが鳴った後もチャンバー内に草が多量に送り込まれている	● ブザーが鳴ったらすぐに走行を停止する。	1 3
		● 収量が多い場合はブザーが鳴ったら一旦後退する	1 3
● トワインが繰り出し直後に切れる	● トワイン案内金具が所定の位置にない	● トワイン案内金具を所定の位置（貼付マークの位置）にする	2 2
● トワイン繰り出し時、トワイン案内金具が左右に動かない (ロールの片側にしかトワインが巻かれていない)	● トワインがトワイン案内金具のアイボルトに通っていない	● トワインをアイボルトに通す	1 9
● カuttingドラムが回転しない。	● ドラムのシェアボルトが切断した	● シェアボルトを交換する 01311 0080 300 (M8×30 11T 全ネジ)	—
		● ナイフを点検し、欠けや磨耗がある場合は、研磨する。	4 0
● 繰り出しが止まらない	● エンジン回転速度が遅い	● エンジン回転速度を上げる	—

付 表

1. 主要諸元 (SR-612、D)

品 名		自走小型ロールペーラ	
型 式		SR－612	SR－612D
機 体 寸 法	全 長	1885mm	1915mm
	全 幅	1530mm	
	全 高	1340mm	
質 量		635kg	645kg
走 行 部	走 行 方 式	エンドレスゴムクローラ	
	車速(無段変速)	前進 0～3.5km/h	後進 0～2.5km/h
	クローラ幅	250mm	
エ ン ジ ン	型 式	三菱 GB290LE-127	ヤンマー L70V6-KETK2
	定 格 出 力	4.4kW/1800min ⁻¹ (6.0ps/1800rpm)	4.3kW/3600min ⁻¹ (5.9ps/3600rpm)
	最 大 出 力	5.9kW(8.0ps)	4.8kW(6.5ps)
	使 用 燃 料	無鉛ガソリン	ディーゼル軽油
	タンク容量	6.0L	3.3L
	始 動 方 式	セルスタータ	
ペ ー ル 部	作 業 幅	1020mm	
	ベール寸法	φ500×730mm	
	ベール重量	14～20kg (含水率20～50%)	
	トワインの種類	PP、サイザル、ジュート	
作 業 速 度		1.0～3.5km/h (無段変速)	
作 業 能 率		30～40分/10a	

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. 主な消耗部品 (SR-612、D)

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	備 考
シェアボルト	01314 5080 300	M8×30 4T 全ネジ
シェアボルト (ディーゼルのみ)	01111 5080 300	M8×30 11T 全ネジ
ナイロンナット	02312 4001 080	M8
ナイフ	11661 6172 001	
トワイン	11661 9994 000	4巻入

付 表

3. 主要諸元 (SR-612DN)

品 名	自走小型ロールペーラ	
型 式	SR-612DN	
機 体 寸 法	全 長	1 9 1 5 mm
	全 幅	1 5 3 0 mm
	全 高	1 3 4 0 mm
質 量	6 9 0 kg	
走 行 方 式	エンドレスゴムクローラ	
走 行 部	車速(無段変速)	前進 0～3.5 km/h 後進 0～2.5 km/h
	クローラ幅	2 5 0 mm
	型 式	ヤンマー L70V6-KETK2
エ ン ジ ン	定 格 出 力	4.3 kW/3600min ⁻¹ (5.9ps/3600rpm)
	最 大 出 力	4.8 kW (6.5ps)
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油
ベ ー ル 部	タ ン ク 容 量	3.3 L
	始 動 方 式	セルスタータ
	作 業 幅	1 0 2 0 mm
部	ベ ー ル 寸 法	φ 5 0 0 × 7 3 0 mm
	ベ ー ル 重 量	1 4～2 0 kg (含水率20～50%)
	トワインの種類	純正ネット又はPP、サイザル、ジュート
作 業 速 度	1. 0～3.5 km/h (無段変速)	
作業能率	ネット	2 3～3 0 分/1 0 a
	トワイン	3 0～4 0 分/1 0 a

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

4. 主な消耗部品 (SR-612DN)

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	備 考
シェアボルト	0 1 3 1 4 5 0 8 0 3 0 0	M8×30 4T 全ネジ
シェアボルト (ディーゼルのみ)	0 1 1 1 1 5 0 8 0 3 0 0	M8×30 11T 全ネジ
ナイロンナット	0 2 3 1 2 4 0 0 1 0 8 0	M8
ナイフ	1 1 6 6 1 6 1 7 2 0 0 1	
ネット	3 2 1 1 8 9 9 1 1 0 0 0	
トワイン	1 1 6 6 1 9 9 9 4 0 0 0	4巻入